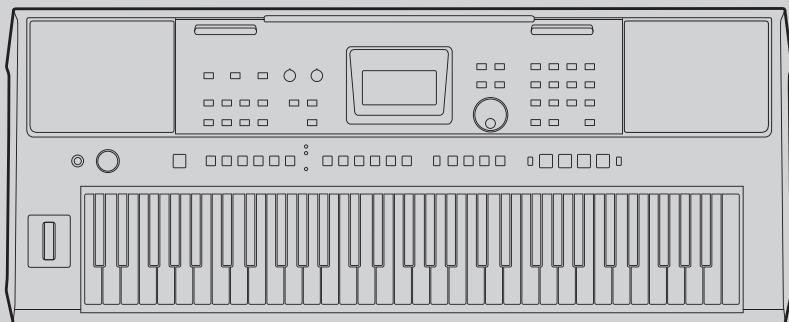


電子キーボード

# 取扱説明書

## PSR-E473



このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この楽器は、豊富な音色や機能で演奏をお楽しみいただける電子キーボードです。この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。

また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

ご使用前に必ず4～9ページの「安全上のご注意」をお読みください。

**保証書付** 裏表紙にあります。

# もくじ

この楽器のおすすめ機能.....	4
対応フォーマットと機能.....	10
付属品(お確かめください).....	10
取扱説明書について.....	11

## 各部の名称と機能 12

## ご使用前の準備 16

電源の準備.....	16
電源を入れる/切る.....	17

## 基本操作と画面表示 18

基本操作.....	18
データを選ぶ.....	19
画面表示.....	20

## 共通の機能を使う 21

メトロノームを使う.....	21
テンポを調節する.....	21
楽器全体の音量を上げる(メガブースト).....	21

## いろいろな楽器(音色)で弾く 22

音色(メイン音色)を選ぶ.....	22
もうひとつの音色(デュアル音色)を重ねる.....	22
左手と右手とで別の音色(スプリット音色)を弾く.....	23
最適なパネル設定を呼び出す	
ワンタッチセッティング(OTS).....	23
ハーモニー効果をつける/リアルペジオ機能を使う.....	24
アーティキュレーション効果をかける.....	25

## 演奏や再生音に効果をかける 26

DSP効果をかける.....	26
モーションエフェクトをかける.....	27

## ノブを回して自分だけの音を作る 28

ノブに機能を割り当てる.....	28
ノブを使う.....	28

## リズムや自動伴奏を再生しながら弾く(スタイル) 29

スタイルを再生しながら演奏する.....	29
スタイル再生に変化をつける.....	30
スタイルのシンクロストップを使う.....	30
スタイルのトラックをオン/オフする.....	30
フィンガリングタイプを設定する.....	31
スマートコードキーを設定する.....	31
スタイルの各パートの音色を変更する(スタイルリボイス).....	31

## ソングやオーディオファイルを再生する 32

デモソングを再生する.....	33
ソングを再生する.....	33
オーディオファイルを再生する.....	34
ソング、オーディオファイルを早送り、早戻し、一時停止する.....	34
ソングの一部をくり返して聞く(A-Bリピート).....	35
ソングの各トラックをミュート(消音)する.....	35

## マイクを接続して弾き語りをする 36

マイクを接続する.....	36
マイクを外す.....	37

## グループクリエイターで遊ぶ 38

グループを再生する.....	38
グループの音に変化をつける.....	38

## ウィックサンプリングを使う 40

サンプルを再生する.....	40
サンプルをループ再生する.....	40
サンプリングの準備をする.....	41
サンプリングをする.....	41
初期設定のサンプルに戻す.....	43
USBフラッシュメモリー内のWAVファイル	
サンプルとして取り込む.....	43
サンプルをUSBフラッシュメモリーに保存する.....	43

## 自分の演奏を録音する 44

ユーザーソングを新規録音する.....	44
ソングのトラック構成.....	45
トラックを指定してユーザーソングを録音する.....	45
ユーザーソングを消去する(ソングクリア).....	46
ユーザーソングの特定のトラックを消去する(トラッククリア).....	47
USBフラッシュメモリーにオーディオファイルを録音する.....	47

## 好みの設定を記憶させる(レジストレーションメモリー) 49

パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する.....	49
記録済みのパネル設定を呼び出す.....	50
登録したパネル設定のうち、呼び出したくない項目を指定する(フリーズ).....	50

## 外部機器と接続する 51

別売のヘッドホンを使う.....	51
ペダル(フットスイッチ)を使う.....	51
楽器の音を外部スピーカーから鳴らす.....	51
オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす.....	52
メロディパートの音を小さくする(メロディキャンセル).....	52
コンピューターやスマートデバイスと接続して使う.....	52

## USBフラッシュメモリーと接続する 54

USBフラッシュメモリーを使う.....	55
ファイルコントロール画面を抜ける.....	56
USBフラッシュメモリーをフォーマットする.....	56
USBフラッシュメモリーにデータを保存する.....	57
USBフラッシュメモリーからデータを読み込む.....	57
USBフラッシュメモリー内のデータを削除する.....	57
メッセージ一覧.....	58

## 機能設定(FUNCTION) 59

機能設定の基本操作.....	59
----------------	----

## バックアップと初期化 66

バックアップデータ.....	66
楽器を初期化する.....	66

## 困ったときは 67

## 仕様 69

## 索引 71

## この楽器のおすすめ機能

### 最新のサウンドクオリティ



最新の音源を採用したことで、表現力が向上し、この楽器1台で存在感のある演奏ができます。

最大同時発音数は64音で、DSPは2系統(メイン音色用のDSP1と、パート割当てできるDSP2)を搭載しています(26ページ)。また、DSP1とDSP2ではディレイ効果を使えます。

### メガブースト



[MEGA BOOST]ボタンを押すと、通常の音量調節とは別枠で、最大で+6dB程度、音量をアップできます(21ページ)。外部スピーカーを接続しないときも、この楽器1台で迫力のある演奏ができます。

### マイク入力



マイク入力端子を搭載し、さらに電池駆動(16ページ)できるので、コンセントのないところでもマイクを使ったパフォーマンスができます。また、マイク入力にリバーブやコーラスなどの効果をかけたり、トーク用の設定に切り替えて使ったりできます(36ページ)。



820

820種類の楽器(音色)や、290種類の自動伴奏(スタイル)を使って、弾きたい曲に合った音で演奏ができます(22ページ、29ページ)。また、これらのデータを選ぶときに、楽器の種類や音楽ジャンルなどのカテゴリーで直感的に選ぶことができるので、かんたんに演奏準備ができます(19ページ)。



290



S.Art Lite(スーパーアーティキュレーションライト)音色を使うと、各楽器特有の奏法を再現できます(25ページ)。



DSPを使った様々な効果を加えることができます(26ページ)。また、動的に変化する効果(モーションエフェクト)をボタン1つでかけて、演奏にかっこいい変化をつけられます(27ページ)。



シンプルで直感的に使える4つのサンプリングパッドで、自由に演奏を盛り上げられます(40ページ)。サンプリング機能でパッドに音を録音して、ループ再生できます。



タッチレスポンス対応の鍵盤で、演奏の強弱を表現できます(60ページ)。



ノブを使って、音をひずませたり、残響音をつけたりして、音をリアルタイムで変化させる表現ができます(28ページ)。



ホイールを使って、バンドやチョーキングなど、ピッチを細かく変化させる表現ができます(15ページ)。



USBフラッシュメモリーを接続して、オーディオ録音(44ページ)や、ソングの保存などができます(54ページ)。



コンピューターとつないで、オーディオやMIDIの通信をしたり、内部データのバックアップができます(52ページ)。



OUTPUT端子を使って、外部スピーカーやミキサーなどに音を出力できるので、ライブハウスやステージでの演奏にも対応できます(51ページ)。

# 安全上のご注意

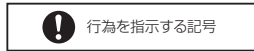
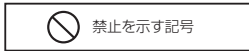
ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様をご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

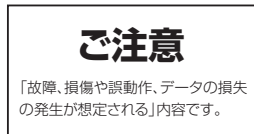
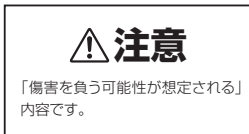
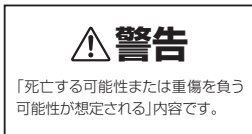
## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



## ■ 「警告」「注意」「ご注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



## 電源アダプターについて



ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。  
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



製品は電源コンセントの近くに設置する。  
電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。  
内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。

## 楽器本体について

# 警告

### 電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(70ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

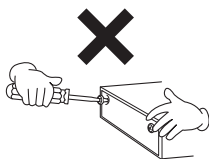
### 分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



### 水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

### 火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

## 電池



禁止

電池を分解しない。

電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、化学やけどや失明のおそれがあります。



禁止

電池を火の中に入れない。

破裂するおそれがあります。



禁止

使い切りタイプの電池は、充電しない。

充電すると液漏れや破裂の原因になります。



禁止

電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しない。

電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。



禁止

指定（70ページ）以外の電池を使用しない。

火災、発熱、液漏れの原因になります。



必ず実行

複数の電池を使う場合、同じメーカーの同じ種類、同じ品番の新しい電池を使用する。

種類やメーカー、品番の異なる電池と一緒に使用したり、新しい電池と古い電池を一緒に使うと、火災、発熱、液漏れの原因になります。



必ず実行

電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。

正しく入れていない場合、発熱、火災、液漏れのおそれがあります。



必ず実行

長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。



必ず実行

充電式ニッケル水素電池を使用する場合は、電池の取扱説明書の指示に従う。

電池に付属の取扱説明書をよく読んで、正しくご使用ください。また、充電電池の充電は、必ず専用の充電器をご使用ください。専用器以外を使用すると、電池が発熱、液漏れ、破裂するおそれがあります。



禁止

電池は子供の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むおそれがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすおそれがあります。



禁止

電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

## 異常に気づいたら



電源プラグを抜く

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。（電池を使用している場合は、電池を本体から抜く。）

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

# ⚠ 注意

## 電源 / 電源アダプター



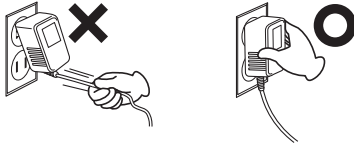
禁止

たこ足配線をしない。  
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。  
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。  
感電や火災、故障の原因になることがあります。

## 設置



禁止

不安定な場所に置かない。  
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかげがをしったりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。  
コードをいためたり、お客様やほかの方々か転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。  
また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

## 接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

## 取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。  
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。  
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々  
がけがをしったりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。  
聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。  
万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

- ・ 使用後は、必ず電源を切りましょう。
- ・ [⏻](スタンバイ/オン) スイッチを切った状態 (画面表示が消えている) でも微電流が流れています。  
[⏻](スタンバイ/オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ 使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

機種名 (品番)、製造番号 (シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom\_ja\_02)



## ご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

### ■ 製品の取り扱いに関する注意

- テレビやラジオ、オーディオ機器、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 使用環境により、強い電波の影響を受けると、まれに楽器が誤動作することがあります。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体が変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります（5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています）。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体が変色/変質する原因になります。

### ■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質の原因になりますので、使用しないでください。

### ■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(66ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(57ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず54ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

## お知らせ

### ■ データの著作権に関するお願い

- この製品に搭載されている「コンテンツ」\*1の著作権は、ヤマハ(株)もしくはその著作権者に帰属します。私的使用のための複製など著作権法上認められている場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」\*2することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。なお、製品本来の使用を通して、上記コンテンツを使用した音楽制作や演奏を行ない、それらを録音して配布する場合、配布方法が有償、無償を問わずヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

\*1: 「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

\*2: 「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

### ■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

### ■ 製品の外観について

- 製品に線や傷が入っているように見える場合があります。これはケースを成型する際に現れる線(ウエルドライン)であり、ヒビやキズではありません。製品の使用上まったく問題ありません。

### ■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて説明のためのものです。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- iPhone、iPadは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

## 対応フォーマットと機能



### GMシステムレベル1

メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。



### XGライト

ヤマハの高品位な音源フォーマットである「XG」の簡易(ライト)版です。「XG」のソングデータを「XGlite」マークの付いた音源を使って手軽に再生して楽しむことができます。ただし、「XGlite」ではコントロールできるパラメーターやエフェクトなどに一部制限がありますので、「XG」のソングデータが元のデータと異なって聞こえる場合があります。



### USB

コンピューターと周辺機器を接続するためのシリアルインターフェースです。



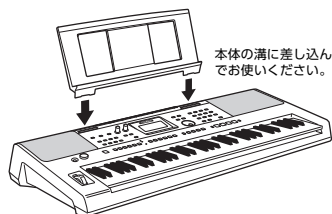
### スタイルファイルフォーマット(SFF)

スタイルファイルフォーマット(SFF)とは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。

## 付属品(お確かめください)

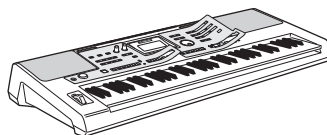
- 取扱説明書(本書)×1
- 和文シート×1
- 譜面立て×1
- 電源アダプター×1
- 製品登録のご案内×1

### 譜面立ての取り付け方



### 和文シート

和文シートをパネルにのせてご利用ください。和文シートは粘着式になっておりますので、パネル面に貼り付けることもできます。



## 取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

### ■冊子マニュアル

- **取扱説明書(本書)**  
この楽器の基本的な機能の使い方と操作を説明しています。

### ■電子マニュアル

- **リファレンスマニュアル**  
この楽器の応用的な機能の使い方と操作を説明しています。
- **データリスト**  
音色名、スタイル名などのリストや、MIDIに関する資料を掲載しています。
- **スマートデバイス接続マニュアル**  
この楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。
- **コンピューターとつなぐ**  
この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。

これらのマニュアルは、下記ウェブサイトの「取扱説明書」のページからご覧いただけます。製品名等を入力して、検索してください。

\* 「MIDI入門」と入力すると、MIDIの基礎知識を説明した資料をPDFで入手できます。

**ダウンロード** <https://jp.yamaha.com/products/contents/keyboards/downloads/>

### ■動画マニュアル

この製品の使い方を説明した動画マニュアルを用意しています。  
スタイルを使った演奏などの楽しみ方を動画でご覧いただけます。



左の二次元コードを読み取れない場合は、下記ウェブサイトアクセスしてください。

[https://www.yamaha.com/2/portable\\_keyboards/](https://www.yamaha.com/2/portable_keyboards/)

※日本語字幕が表示されない場合は、YouTube画面右下の字幕ボタンと設定ボタンで設定してください。



設定ボタン(字幕の言語などを設定します。)

字幕ボタン(字幕表示のオン/オフを切り替えます。)

### ソングブックのダウンロード

無料でダウンロードできるソングブックを、この楽器を演奏するときにぜひご活用ください。下記ウェブサイトの「資料/データ」ページで、製品名等を入力して検索するとダウンロードできます。

<https://jp.yamaha.com/products/contents/keyboards/downloads/>



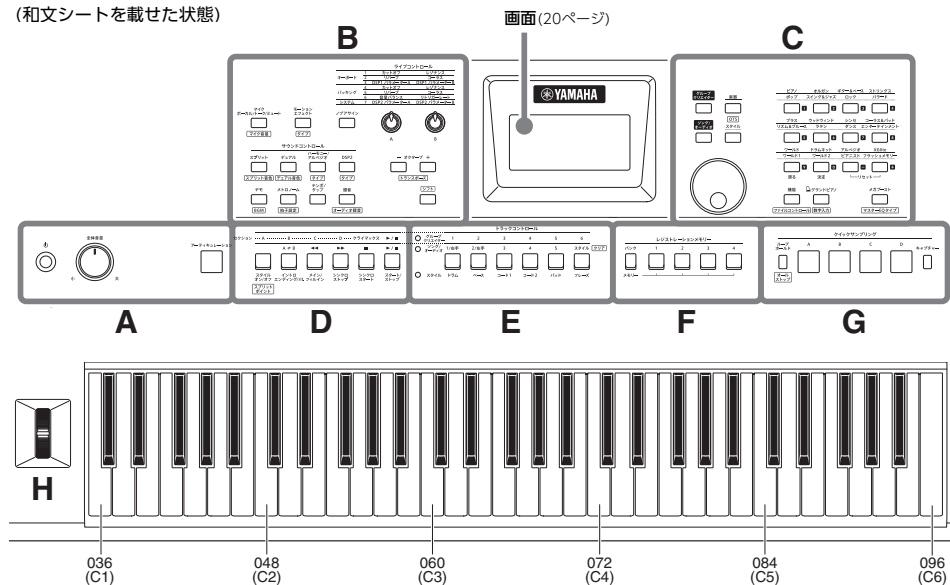
#### ソングブック

この楽器に内蔵されているソング(一部を除く)の楽譜が掲載されています。

# 各部の名称と機能

## ■フロント(正面)パネル

(和文シートを載せた状態)



各鍵盤には番号(例036)と音名(例C1)が割り当てられています。これらは、スプリットポイント(60ページ)を指定するときなどに必要です。

### で囲まれたボタン名について(シフト機能)

[シフト] (SHIFT) ボタンを押したままボタンを操作すると、その枠内に書かれた機能が実行されます。例えば、[シフト] ボタンを押しながら[マイク ボーカル/トーク/ミュート] ボタンを押すと、**マイク音量** 設定画面が呼び出されます。

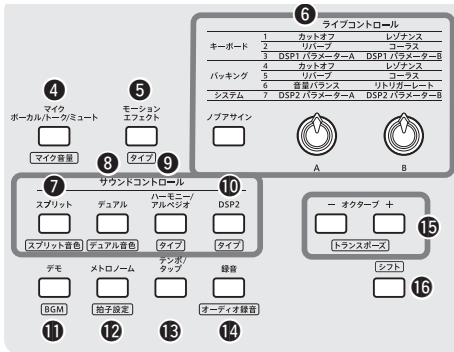


## A



- 1 [ON] (スタンバイ/オン)スイッチ .....17ページ  
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- 2 [全体音量] (MASTER VOLUME)コントロール..17ページ  
楽器全体の音量を調節します。
- 3 [アーティキュレーション] (ARTICULATION)ボタン  
.....25ページ  
押したまま鍵盤を弾くと各楽器特有の奏法を再現します。

## B



- 4** [マイク ボーカル/トーク/ミュート] (MIC VOCAL/TALK/MUTE) ボタン .....36ページ  
マイクタイプ(ボーカル/トーク/ミュート)を切り替えます。

**マイク音量** : マイク音量調節画面を呼び出します。

- 5** [モーションエフェクト] (MOTION EFFECT) ボタン .....27ページ  
押している間、演奏音にさまざまな効果がかかります。  
**タイプ** : モーションエフェクトタイプの選択画面を呼び出します。

### ライブコントロール(LIVE CONTROL)

- 6** [ノブアサイン] (KNOB ASSIGN) ボタン、  
[A]/[B]ノブ .....28ページ  
ノブに機能を割り当て、サウンドをコントロールします。

### サウンドコントロール(SOUND CONTROL)

- 7** [スプリット] (SPLIT) ボタン .....23ページ  
鍵盤全体を2つの領域に分けて、右手と左手で異なる音色を鳴らせます。

**スプリット音色** : 左手で鳴らす音色の変更画面を呼び出します。

- 8** [デュアル] (DUAL) ボタン .....22ページ  
2つの異なる音色を重ねて鳴らします。

**デュアル音色** : 重ねて鳴らす音色の変更画面を呼び出します。

- 9** [ハーモニー/アルペジオ] (HARMONY/ARPEGGIO) ボタン .....24ページ  
ハーモニー効果またはアルペジオ機能をオン/オフします。

**タイプ** : ハーモニータイプまたはアルペジオタイプの選択画面を呼び出します。

- 10** [DSP2] ボタン .....26ページ  
DSP2効果をオン/オフします。

**タイプ** : DSP2効果タイプの選択画面を呼び出します。

- 11** [デモ] (DEMO) ボタン .....33ページ  
デモソングを連続再生します。

**BGM** : 連続再生するソンググループ(デモグループ)の設定画面を呼び出します。

- 12** [メトロノーム] (METRONOME) ボタン .....21ページ  
メトロノームをオン/オフします。

**拍子設定** : メトロノームの拍子設定画面を呼び出します。

- 13** [テンポ/タップ] (TEMPO/TAP) ボタン .....21ページ  
テンポ設定画面を呼び出します。

- 14** [録音] (REC) ボタン .....44ページ  
演奏を楽器本体にMIDI録音します。

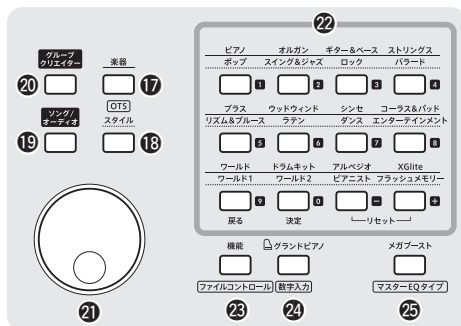
**オーディオ録音** : 演奏をUSBフラッシュメモリーにオーディオ録音します(47ページ)。

- 15** オクターブ(OCTAVE)[-][+]ボタン  
メイン音色およびデュアル音色のピッチ(音高)を1オクターブ単位で上げ下げします。

**トランスポーズ** : 楽器全体のピッチ(音高)を半音単位で微調整します。

- 16** [シフト] (SHIFT) ボタン .....12ページ  
このボタンを押したまま他のボタンを押すことで、そのボタンの2つめの機能を呼び出せます。

C



17 [楽器] (VOICE) ボタン .....22ページ  
楽器 (音色) を選択するときに押します。

**OTS** : 現在選ばれているソング、スタイル、またはグループに最適な楽器 (音色) やパネル設定を呼び出します。

18 [スタイル] (STYLE) ボタン .....29ページ  
スタイル機能を使うときに押します。

19 [ソング/オーディオ] (SONG/AUDIO) ボタン .....32ページ  
ソング機能、またはオーディオ機能を使うときに押します。

20 [グループクリエイター] (GROOVE CREATOR) ボタン .....38ページ  
グループクリエイター機能を使うときに押します。

21 **ダイヤル** .....19ページ  
項目や数値を変更します。

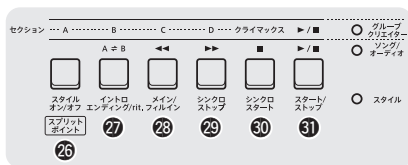
22 **カテゴリー / 数字入力ボタン**、[戻る] (EXIT)、[決定] (ENTER) ボタン .....19ページ  
楽器 (音色)、スタイルを選択するときに、カテゴリーを指定します。[NUM LOCK] (数字入力) 有効時は、数字入力に使用します。  
それ以外のときは、最下段のボタンを[戻る] (EXIT) ボタン、[決定] (ENTER) ボタンとして使います。

23 **[機能] (FUNCTION) ボタン** .....59ページ  
機能設定画面を呼び出します。  
**ファイルコントロール** : ファイルコントロール画面 (USB フラッシュメモリの操作画面) を呼び出します。(55ページ)

24 **[グランドピアノ] (PORTABLE GRAND) ボタン**  
楽器 (音色) がグランドピアノになります。  
**数字入力** : 2のボタン群をNUM LOCK状態 (数字入力ボタン) として使う状態にします。(19ページ)

25 **[メガブースト] (MEGA BOOST) ボタン** .....21ページ  
楽器の音量を上げます。  
**マスターEQタイプ** : マスターEQタイプ選択画面を呼び出します。

D

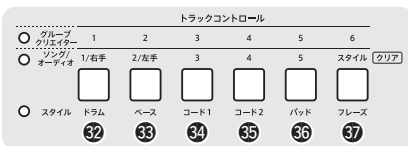


26~31 **再生コントロールボタン**  
スタイル、ソング/オーディオ、またはグループのうち、ランプがついているものの再生をコントロールします。

スタイル (STYLE) ランプ点灯時 .....29ページ  
ソング/オーディオ (SONG/AUDIO) ランプ点灯時 .....32ページ  
グループクリエイター (GROOVE CREATOR) ランプ点灯時 .....38ページ

**スプリットポイント** : スプリットポイント設定画面を呼び出します。

E

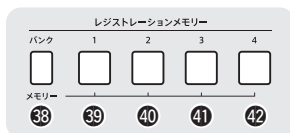


32~37 **トラックコントロール (TRACK CONTROL) ボタン**  
スタイル、ソング、またはグループのうち、ランプがついているもののトラックをオン/オフします。

スタイル (STYLE) ランプ点灯時 .....30ページ  
ソング/オーディオ (SONG/AUDIO) ランプ点灯時 .....35ページ  
グループクリエイター (GROOVE CREATOR) ランプ点灯時 .....38ページ

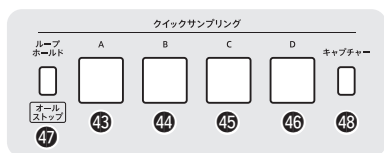
**クリア** : 選択中のユーザーソングの、対応するトラックのデータをクリア (削除) します (47ページ)。

F



38~42 **レジストレーションメモリー (REGISTRATION MEMORY) ボタン** .....49ページ  
パネル設定 (15ページ) を保存したり、呼び出したりします。

## G



## クイックサンプリング(QUICK SAMPLING)

- 43～46 [A]～[D]パッド.....40ページ  
サンプルを再生します。
- 47 [ループホールド] (LOOP HOLD) ボタン .....40ページ  
このボタンを押したまま[A]～[D]パッドを押すと、  
サンプルがくり返し再生されます。
- オールストップ** : すべてのサンプルの再生を停止します。
- 48 [キャプチャー] (CAPTURE) ボタン.....41ページ  
クイックサンプリングモードに入ります。

## H

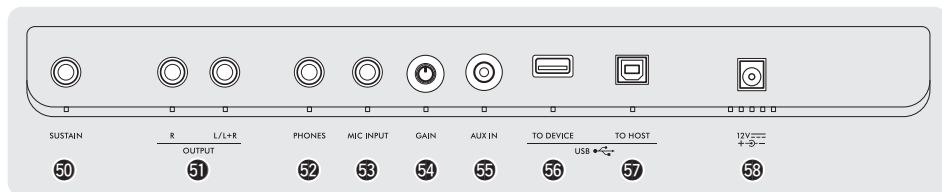


- 49 [ピッチベンド] (PITCH BEND)ホイール  
ホイールを上下に動かして鍵盤演奏音のピッチ (音高)  
を滑らかに上げ下げします。

## パネル設定

ここで説明したように、パネル上のボタンを使ってさまざまな設定ができます。これらの設定をまとめて「パネル設定」と呼びます。

## ■リア(背面)パネル



- 50 [SUSTAIN]端子.....51ページ  
別売のフットスイッチを接続します。
- 51 OUTPUT [L/L+R]、[R]端子.....51ページ  
アンプ内蔵スピーカーを接続します。
- 52 [PHONES]端子.....51ページ  
ヘッドホンを接続します。
- 53 [MIC INPUT]端子.....36ページ  
マイクを接続します。
- 54 [GAIN]ノブ.....36ページ  
マイクの入力レベルを調整します。
- 55 [AUX IN]端子.....52ページ  
オーディオ再生機器を接続します。
- 56 [USB TO DEVICE]端子.....54ページ  
USBフラッシュメモリーを接続します。
- 57 [USB TO HOST]端子.....52ページ  
コンピューターやスマートデバイスと接続します。
- 58 DC IN端子.....16ページ  
電源アダプターを接続します。

# ご使用前の準備

## 電源の準備

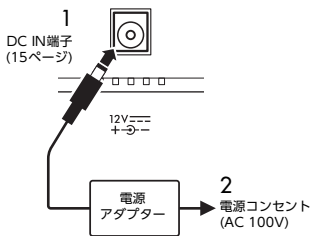
この楽器の電源には、電源アダプターが電池を使用できますが、電源アダプターのご使用をおすすめします。

### ご注意

USBフラッシュメモリーに対して操作する場合は、電源アダプターをご使用ください。電池を使用すると、操作中に電源が切れてデータを失うおそれがあります。

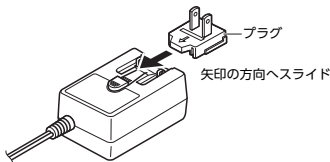
## 電源アダプターを使うときは

図の順序で電源アダプターを接続します。



### 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(70ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。
- プラグが外れるタイプの電源アダプターは、必ずプラグを装着した状態で使用、または保管してください。プラグ部分だけをコンセントに差し込むと、感電や火災の原因になります。
- プラグが外れた場合は、内部の金属部分に触れないよう注意して、カチッと音がするまで完全に差し込んでください。また異物が入らないようご注意ください。感電やショート、故障の原因になります。



### 注意

本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

### NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行なってください。

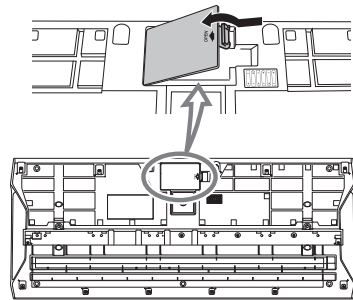
## 電池を使うときは

この楽器は、単3形のアルカリ乾電池、マンガン乾電池、充電式ニッケル水素電池(充電電池)を使用できます。ただし、使い方により大きな電力を消費する場合がありますので、アルカリ乾電池または充電電池のご使用をおすすめします。

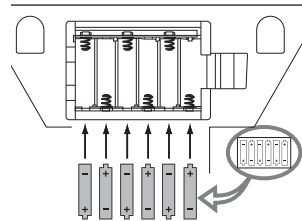
### ご注意

充電電池をお使いの場合は、必ず充電電池の説明書をお読みください。

- 電源が切れていることを確認してください。
- 本体を柔らかい布などの上で裏返し、電池カバーを外します。



- 電池6本を入れます。イラストに合わせて、向きを間違えないように入れてください。



- 電池カバーを閉めます。
- お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定を切り替えます(17ページ)。

### ご注意

- 電池がセットされ電源が入っているときに、電源アダプターを抜き差しすると、電源が切れることがあります。電源が切れると録音中や転送中のデータが失われますので、ご注意ください。
- 電池は早めの交換をおすすめします。電池の残量が少なくなると、音量が小さくなる、音質が劣化する、また正常に動かなくなる、などが起こることがあります。

### NOTE

- 充電電池は、必ず専用の充電器で充電してください。この楽器では、充電できません。
- 電池が本体に入っている状態でも、電源アダプターが接続されている場合は、電源アダプターが電源として使われます。



### ■電池の種類を設定する

お使いの電池の種類に合わせて、本体の設定(アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素電池)を切り替えてください。設定は電源を入れてから変更します。初期設定は、アルカリ乾電池です。設定の確認、変更について詳しくは65ページ(機能番号081)をご覧ください。

#### ご注意

電池の種類の設定を間違えると、電池の劣化を早めたり、電池の使用可能時間が短くなります。正しい設定でお使いください。

### ■電源の状況を確認する

電池と電源アダプターのどちらが電源として使われているかは、画面上で確認できます。電池が使われている場合は、残量を確認できます。



: 電池が使われています。

表示なし: 電源アダプターが使われています。

#### 【NOTE】

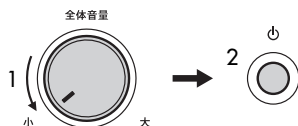
電源アダプターが接続されている場合は、電池がセットされていても画面上にアイコンは表示されません。

### 電池の残量表示

	電池残量がありません。電源が切れます。
	電池残量が少なくなっています。充電の場合は早めの充電を、乾電池の場合は早めの交換をおすすめします。電池残量が少なくなると、音量が小さくなったり音質が劣化したり、また正常に動かなくなることがあります。
	電池の残量が十分にあります。

## 電源を入れる/切る

- 1 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。



- 2 [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

- 3 鍵盤を弾いて音を確かめながら、[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左右に回して全体音量を調節します。

#### ⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

- 4 電源を切るには、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒ほど押します。

#### ⚠ 注意

電源を切った状態でも微細な電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。また、電池を使用している場合は、電池を本体から抜いてください。

#### ご注意

電源を入れるときは、起動時の特別な操作をする場合を除き、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチ以外(鍵盤、ボタン、ペダルなど)を操作しないでください。楽器が誤動作する原因になります。

## オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では30分ですが、変更することもできます(65ページ、機能番号080)。

### ■オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。



#### ご注意

アンプ、スピーカー、コンピューターなどの外部機器を本体に接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、外部機器損傷を防ぐために取扱説明書の手順に従って外部機器と本体の電源を切ってください。接続した状態で自動的に電源が切れるのを避けたい場合は、オートパワーオフを解除してください。

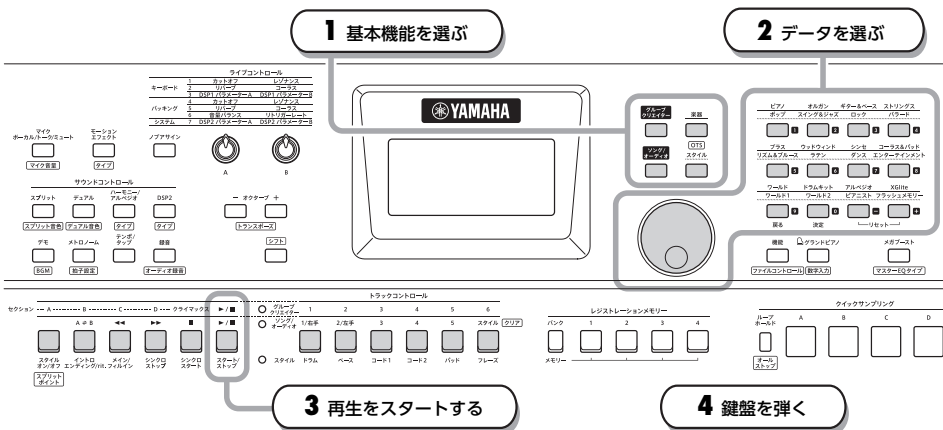
#### 【NOTE】

オートパワーオフ機能により電源が切れても、それまでのデータは自動的に保存されます。保存される内容については、66ページをご覧ください。

# 基本操作と画面表示

## 基本操作

この楽器の基本機能は楽器(音色)、スタイル、ソング/オーディオ、グループクリエイターの4つです。基本機能を選んでから、演奏に使うデータ(音色、スタイル、ソング、グループなど)を選びます。



**1** [楽器]、[スタイル]、[ソング/オーディオ]、[グループクリエイター]ボタンのうち、使いたい機能のボタンを押します。

基本機能を選ぶと、選んだ機能の現在値が表示されます。

**NOTE**

スタイル、ソング/オーディオ、グループクリエイター機能は、どれか一つだけが使えます。現在どの機能が選ばれているかは、トラックコントロールボタンの横にあるランプで表示されます。

**2** お好みのデータを選びます。

下記の3つの方法があります。

- ダイヤルで選ぶ
- カテゴリーで選ぶ(音色、スタイルのみ)
- 数字入力で選ぶ

各操作について詳しくは、「データを選ぶ」(19ページ)をご覧ください。

**3** [スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押します。

スタイル、ソング、オーディオ、またはグループの再生がスタートします。

**NOTE**

もう一度[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すと、再生はストップします。

**4** 鍵盤を弾いて楽器(音色)を鳴らします。

**NOTE**

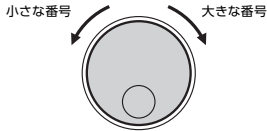
選んだソング、スタイル、グループに合ったパネル設定(音色やテンポなど)を、「ワンタッチセッティング(OTS)機能(23ページ)で呼び出すこともできます。

## データを選ぶ

ダイヤル、カテゴリ選択、数字入力の3つの方法でデータ(音色、スタイルなど)を選びます。

### ダイヤルで選ぶ

ダイヤルを回してデータを選びます。  
右(時計回り)に回すと大きな番号に、左に回すと小さな番号になります。



#### NOTE

本書では、項目を選んだり、数値を変更したりする操作を、ダイヤルを使う方法で説明しています。ダイヤルで変更できるものは、ほとんどの場合、数字入力でも変更できません。

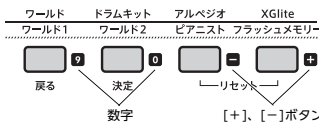
### カテゴリで選ぶ(音色、スタイルのみ)

上段のボタン名が楽器(音色)のカテゴリ、下段のボタン名がスタイルのカテゴリです。ボタンを押すたびに、そのカテゴリ内で番号順に切り替わります。



### 数字入力で選ぶ

ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)を参考に、番号を直接入力します。



#### NOTE

- 音色やスタイルを選ぶときは、数字入力をオンにする必要があります。詳しくは右記「数字入力のオン/オフ」をご覧ください。
- [+]または[-]ボタンを押し続けると、連続して数字が変わります。[+]ボタンと[-]ボタンを同時に押しすと、初期設定に戻ります。

### 数字入力のオン/オフ(音色、スタイルのみ)

音色やスタイルを選ぶ場合は、初期設定では数字入力がオフになっています。数字入力するには、次の操作でカテゴリボタンを数字入力ボタンに切り替える必要があります。

[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタンを押すと、数字入力がオンになり、画面に **NUM LOCK** アイコンが点灯します。



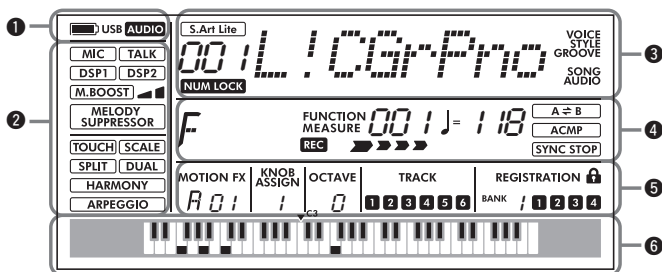
もう一度同じ操作をすると、数字入力がオフになり、アイコンは消灯します。

#### NOTE

ソング、オーディオファイル、またはグループを選ぶときは、数字入力はオフにできません。

## 画面表示

音色、スタイル、ソング、オーディオファイル、グループなど、楽器の状態が表示されます。



### ① 電池/USB状態表示

電池、USBフラッシュメモリーの使用状態を表示します。



電池状態(17ページ)



USB USBフラッシュメモリーの接続状態(55ページ)



AUDIO オーディオファイル再生/録音中(47ページ)

### ② 各種機能の状態表示(1)

各機能のオン/オフの状態を表示します。



マイク(36ページ)



DSP効果(26ページ)



メガブースト(21ページ)



メロディーキャンセル(52ページ)



タッチレスポンス(60ページ)



スケールチューン(63ページ)



スプリット(23ページ)



デュアル(22ページ)



ハーモニー (24ページ)



アルペジオ(24ページ)

### ③ メイン表示

選択中のコンテンツ名や番号、設定値などを表示します。左右にあるアイコンは、それぞれ以下の意味です。



S.Art Lite 音色を選択中(25ページ)



数字入力が有効(19ページ)



どのコンテンツの番号や名前を表しているかを示します。例えば、音色を選んでいるときは「VOICE」が点灯します。



SONG AUDIO

### ④ 再生/録音状態、機能番号の表示

認識されているコードやテンポなど、再生や録音の状態を表示します。機能設定(59ページ)中は機能番号を表示します。



自動伴奏鍵域(29ページ)で弾いたコード、またはソングで再生されたコード



・機能設定中: 機能番号(59ページ)  
・ソング/グループ再生中: 小節番号



ビート



録音待機中または録音中(44ページ)



テンポ(21ページ)



A-Bリピート(35ページ)がオン



スタイル(ACMP)(29ページ)がオン



シンクロストップ(SYNC STOP)(30ページ)がオン

### ⑤ 各種機能の状態表示(2)

各機能の設定値を表示します。



モーションエフェクトタイプ(27ページ)



ライブコントロール(LIVE CONTROL)ノブの機能番号(28ページ)



オクターブ(OCTAVE)[-][+]ボタンの設定(13ページ)



ソング/スタイル/グループの、各トラックのオン/オフ状態(30、35、38ページ)



レジストレーションメモリーの状態(49ページ)  
・バンク番号  
・データが入っているメモリー番号  
・フリーズのオン/オフ

### ⑥ 鍵盤表示

押した鍵盤の位置を表示します。

# 共通の機能を使う

各基本機能に共通する操作や、楽器全体の状態を調節する機能などについて説明します。

## メトロノームを使う

曲を練習するときなどに、メトロノームを使います。

- 1 [メトロノーム](METRONOME)ボタンを押してスタートします。



- 2 もう一度[メトロノーム](METRONOME)ボタンを押すと止まります。

### メトロノームの音量を設定する

機能設定(63ページ 機能番号061)で設定します。

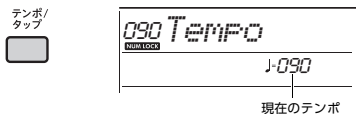
### メトロノームの拍子を設定する

機能設定(63ページ 機能番号059、060)で設定します。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

## テンポを調節する

メトロノーム、スタイル(29ページ)、ソング(32ページ)、グループ(38ページ)のテンポを調節できます。

- 1 [テンポ/タップ](TEMPO/TAP)ボタンを押して、「Tempo」を表示させます。画面に現在のテンポが表示されます。



- 2 ダイヤルを回してテンポを調節します。

- 3 [楽器](VOICE)ボタンを押してテンポ設定画面を抜けます。

以下のボタンを押してもテンポ設定画面を抜けられます。

- ・[グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタン
- ・[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタン
- ・[スタイル](STYLE)ボタン

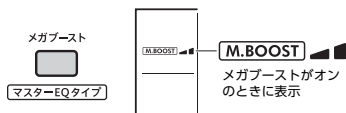
## タップ機能を使う

ソングやスタイルの再生中に[テンポ/タップ](TEMPO/TAP)ボタンを2回押すと、そのテンポに切り替わります。停止中は、選んだソング/スタイルの拍子の回数(4拍子なら4回)ボタンを押すと、そのテンポで再生をスタートできます。(タップスタート)



## 楽器全体の音量を上げる(メガブースト)

メガブースト機能を使うと、最大で+6dB程度音量がアップするので、外部スピーカーを接続しなくても、この楽器1台で迫力のある演奏ができます。[メガブースト](MEGA BOOST)ボタンを押すたびに、以下の3つが順に切り替わります。



- [M.BOOST] 🗲️ : 音量アップ(+3dB程度)
- [M.BOOST] 🗲️🗲️ : さらに音量アップ(+6dB程度)
- 表示なし : メガブーストオフ

### ご注意

- ・マイク使用時にメガブースト機能を使うと、ハウリングが起こりやすくなります。ハウリングが起こった場合は、以下の方法でハウリングを解消してください。
  - マイク音量を小さくする。
  - メガブースト機能による音量アップを小さくする。
  - メガブースト機能をオフにする。
- ・メガブースト機能をオンにすると、選ばれている音色やスタイルによっては、音がひずみややすくなります。

### NOTE

- ・ヘッドホン接続時は、メガブーストは自動的にオフになります。
- ・メガブースト機能は、本体スピーカーの他に、OUTPUT [L/R+]、[R]端子からの出力にも効果します。

# いろいろな楽器(音色)で弾く

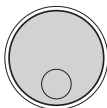
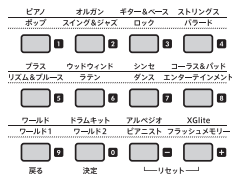
この楽器では、ピアノ以外の楽器(音色)を選んで演奏できます。また、ひとつの音色(メイン音色)を鳴らすだけでなく、もうひとつ別の音色(デュアル音色)を重ねて鳴らしたり、鍵盤を左右に分けて左手で右手とは違う音色(スプリット音色)を弾いたりできます。

## 音色(メイン音色)を選ぶ

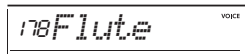
- 1 [楽器](VOICE) ボタンを押します。  
音色の番号と名前が表示されます。  
音色の一覧については、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)をご覧ください。



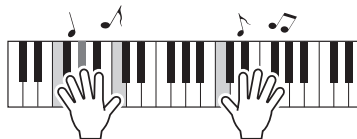
- 2 カテゴリーボタンやダイヤルを使って、鳴らしたい音色を選びます(19ページ)。



または



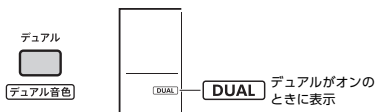
- 3 鍵盤を弾いてみましょう。



## もうひとつの音色(デュアル音色)を重ねる

メイン音色に重ねて、もうひとつ別の音色を鳴らせます。

- 1 [デュアル](DUAL) ボタンを押してデュアルをオンにします。



デュアル音色は、現在のメイン音色に最適なものが自動的に選ばれますが、自分で選ぶこともできます。

- 2 鍵盤を弾いてみましょう。



もう一度[デュアル](DUAL) ボタンを押すと、デュアルはオフになります。

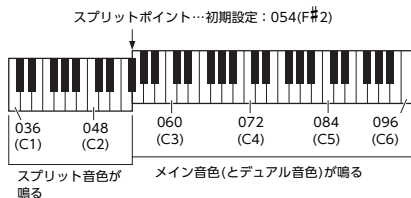
## デュアル音色を変更する

[シフト](SHIFT) ボタンを押したまま[デュアル](DUAL) ボタンを押すと、「D.Voice」(60ページ 機能番号015)の設定が表示されます。ダイヤルを回して音色を変更します。

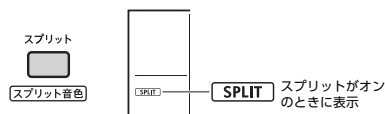
## 左手と右手とで別の音色(スプリット音色)を弾く

鍵盤全体を図のようにを2つの領域に分けることで、右手と左手で違う音色を鳴らせます。

左手鍵盤で鳴らす音色を「スプリット音色」と呼びます。

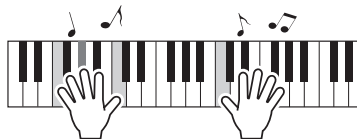


- 1 [スプリット](SPLIT) ボタンを押してスプリットをオンにします。



鍵盤がスプリットポイントを境に、左右に分割されます。右側の鍵盤でメイン音色(とデュアル音色)を、左側の鍵盤でスプリット音色を鳴らします。スプリット音色や、スプリットポイントは自由に変更できます。

- 2 鍵盤を弾いてみましょう。



もう一度[スプリット](SPLIT) ボタンを押すと、スプリットはオフになります。

### スプリット音色を変更する

[シフト](SHIFT) ボタンを押したまま[スプリット](SPLIT) ボタンを押します。「S.Voice」(61ページ 機能番号025)の設定値が表示されるので、ダイヤルを回して音色を変更します。

### スプリットポイントを変更する

[スタイル](STYLE) ボタンを押した後、[シフト](SHIFT) ボタンを押したまま[スタイル オン/オフ](ACMP ON/OFF) ボタンを押します。「SplitPnt」(60ページ 機能番

号004)の設定画面が表示されるので、ダイヤルを回して設定を変更します。

### スプリット音色の音量を調節する

機能設定(61ページ 機能番号026)で設定します。

## 最適なパネル設定を呼び出す ワンタッチセッティング(OTS)

現在選択されているソング、スタイル、グループに最適な音色やテンポなどのパネル設定をまとめて呼び出すことができます。

[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)、[スタイル](STYLE)または[グループクリエイター](GROOVE CREATOR) ボタンを押して、ソング、スタイルまたはグループを選んでから、音色番号000 [OTS] を選びます(22ページ)。(または、[シフト](SHIFT) ボタンを押したまま[楽器](VOICE) ボタンを押します。)

### 各音色の特徴

001~294	いろいろな楽器の音です。
295~322 (ドラム/ SFXキット)	ドラムや打楽器などの音や、効果音などが鍵盤に割り振られています。鍵盤への割り振りについては、ウェブサイト(11ページ)上のデータリスト内「ドラム/SFXキットリスト」をご覧ください。
323~362	アルペジオ演奏(24ページ)が楽しめる音色です。この音色を選ぶと、自動的にアルペジオがオンになります。
363~820	ヤマハの高品位な音源フォーマットである「XG」の簡易(ライト)版の音です(10ページ)。
000	この番号を選ぶと、選ばれているソング、スタイルまたはグループに最適な音色やパネル設定が自動的に選ばれます。これをワンタッチセッティング(OTS)機能といいます。

## ハーモニー効果をつける/アルペジオ機能を使う

鍵盤で弾いた音に、ハーモニーやトレモロ、エコーなどの効果をつけたり、自動で分散和音を弾けるアルペジオ機能を使ったりできます。ハーモニーやアルペジオにはタイプごとに様々な効果があります。詳しくは、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)内の「エフェクトタイプリスト」をご覧ください。

### 1 [ハーモニー / アルペジオ](HARMONY/ARPEGGIO)ボタンを押します。

ハーモニー効果またはアルペジオ機能がオンになります。



ハーモニー効果またはアルペジオ機能をオンにすると、現在のメイン音色に最適なハーモニータイプまたはアルペジオタイプのどちらかが自動的に選ばれます。機能設定(62ページ 機能番号050)でハーモニータイプ/アルペジオタイプを変更できます。

### 2 鍵盤を弾いて、ハーモニー効果やアルペジオ機能を確認してみましょう。

ハーモニー効果はハーモニータイプによって鳴らし方が異なります。右記の「タイプ別鳴らし方」や、データリスト内のハーモニータイプリストを参考に弾いてみましょう。

アルペジオ機能は、押さえる鍵盤の数や位置を変えると、生成される分散和音が変わります。

### 3 ハーモニー効果/アルペジオ機能をオフにするときは、もう一度[ハーモニー / アルペジオ](HARMONY/ARPEGGIO)ボタンを押します。

#### タイプ別鳴らし方

##### ●ハーモニータイプ01～05



スタイル(ACMP)をオン(29ページ)にして自動伴奏領域でコードを弾きながら右手鍵盤を弾く

##### ●ハーモニータイプ06～12(トリル)



鍵盤を2つ押さえ続ける

##### ●ハーモニータイプ13～19(トレモロ)



鍵盤を押さえ続ける

##### ●ハーモニータイプ20～26(エコー)



鍵盤を弾く

#### NOTE

- アルペジオ機能は、スプリット(23ページ)がオンのときはスプリット音色にのみ、スプリットがオフのときはメイン音色とデュアル音色にかかります。スプリット音色とメイン/デュアル音色両方に効果を加えることはできません。
- 音色番号353～362の音色は、アルペジオ機能だけでなく、スプリット機能も自動的にオンになります。この場合、アルペジオはスプリット音色のみに有効なので、スプリットポイントより左側の鍵盤を押さえてください。
- フットスイッチにアルペジオのホールド機能を割り当てることで、鍵盤から手を離してもアルペジオを鳴らし続けられます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

## ハーモニー音量を調節する

ハーモニー音量は、機能設定(62ページ、機能番号051)で調節します。

## アルペジオの音量(ペロシティー)を調節する

アルペジオの音量(ペロシティー)は、機能設定(62ページ、機能番号052)で調節します。



## アーティキュレーション効果をかける

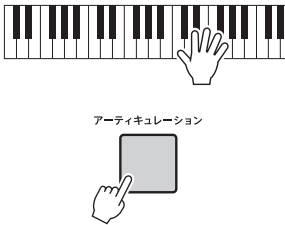
ギターのハーモニクスなど、楽器特有の奏法を再現する効果です。[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを押している間だけ、演奏音にアーティキュレーション効果がかかります。この効果をかけられる音色をS.Art Lite音色(スーパーアーティキュレーションライト音色)と呼びます。

### 1 お好みのS. Art Lite 音色を選びます。

S.Art Lite 音色を選択すると、画面にアイコンが表示されます。また、S.Art Lite 音色は、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)内の「音色リスト」で「\*\*\*」がつけられています。



### 2 鍵盤を弾きながら、[アーティキュレーション](ARTICULATION)ボタンを使って効果を試してみましょう。



[アーティキュレーション]ボタンを離すと、アーティキュレーション効果はオフになります。

### アーティキュレーション効果の例

ギターを選択した場合、以下のような操作でギター固有の奏法をリアルに再現できます。

**例：音色番号064 [S.Art Liteナイロン弦ギター ハーモニクス]**  
アーティキュレーションボタンを押したまま鍵盤を弾くと、ハーモニクス音が鳴ります。

**例：音色番号068 [S.Art Liteディストーションギター]**  
アーティキュレーションボタンを押すと、スクラッチノイズが鳴ります。

アーティキュレーション効果は、S.Art Lite音色が選択されている場合のみ、その音色に最適な効果がかかります。その他の場合は、アーティキュレーション効果はかからず、かわりに音を揺らすような効果がかかります。

### ペダルを使ってアーティキュレーション効果をかける

機能設定(62ページ 機能番号054)でペダル(フットスイッチ)にアーティキュレーション機能を割り当てると、ペダルを踏むことで効果をかけられます。

#### NOTE

- アーティキュレーション効果はメイン音色にのみかかります。
- S.Art Lite 音色は、鍵盤を強く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。

# 演奏や再生音に効果をかける

鍵盤演奏やスタイル、ソング、グループの再生音、マイク入力音などに効果をかけ、表現の幅を広げることができます。

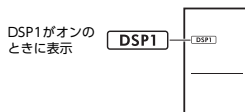
## DSP効果をかける

この楽器には、音にデジタル信号処理を施して変化をつけるDSP(デジタルシグナルプロセッサ)が2つ搭載されています(DSP1、DSP2)。DSP1はメイン音色に、DSP2は機能設定(61ページ、機能番号043)で指定したパートにDSP効果をかけます。

DSP効果の各タイプについて詳しくは、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)内の「エフェクトタイプリスト」をご覧ください。

### DSP1の設定

DSP1効果は、メイン音色を選んだときに最適なタイプが自動的に選ばれます。

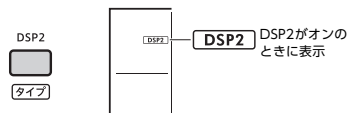


DSP1のタイプを変更したり、DSP1をオフにしたい場合は、機能設定(61ページ、機能番号041)で変更できます。

### DSP2の設定

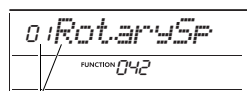
DSP2効果は、自動的に選ばれることはありません。オン/オフ、タイプ、効果対象パートを選択して使います。

#### 1 [DSP2]ボタンを押してDSP2をオンにします。



#### 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[DSP2](DSP2)ボタンを押して、「DSP2Type」の設定画面を呼び出します。

現在のDSP2タイプが表示されます。



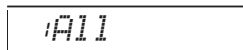
#### 3 ダialを回して、好きなDSP2タイプを選びます。

#### 4 [決定](ENTER)ボタンを押して「DSP2Type」の設定画面を抜けます。

#### 5 Dialを回して機能番号043「DSP2Part」を表示させます。

#### 6 [決定](ENTER)ボタンをして、「DSP2Part」の設定画面に入ります。

現在の効果対象パートが表示されます。



#### 7 Dialを回して、DSP2効果対象パートを選びます。

設定値による効果対象パートは以下の通りです。

1	All	2~5の全パート
2	Keyboard	メイン、デュアル、スプリット音色
3	Backing	スタイル、グループ、ソング再生、MIDI入力
4	Mic	マイク入力
5	Sampling	サンプリングパッド再生

#### 8 [機能](FUNCTION)ボタンを押して機能設定画面を抜けます。

#### 9 手順7で指定したパートを鳴らして、DSP2効果がかかっていることを確かめます。

#### 10 もう一度[DSP2]ボタンを押すとDSP2はオフになります。

#### ユーザーソング(MIDI)録音/再生時の制限

- DSP1、DSP2の設定(タイプ、オン/オフ、効果対象パート)は、ユーザーソングには記録されません。ただし、DSP効果のかかった演奏をオーディオファイルとしてUSBフラッシュメモリーに録音することはできます。

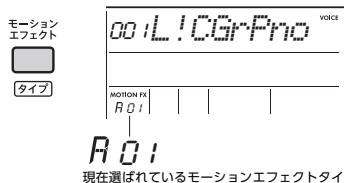
#### NOTE

- DSP1、DSP2の設定はレジストレーションメモリーに記録し、呼び出すことができます(49ページ)。
- DSP1、DSP2、その他効果の結線図については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

## モーションエフェクトを加える

演奏音に動的な効果を加えることができます。

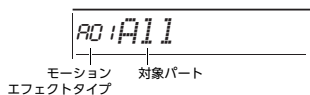
[モーションエフェクト](MOTION EFFECT)ボタンを押している間だけ、効果がかけられます。



モーションエフェクトには、フィルター効果、ピッチ効果、モジュレーション効果など、様々なタイプがあります。どのようなタイプがあるかは、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)内「エフェクトタイプリスト」をご覧ください。

### モーションエフェクトタイプを変更する

- 1 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[モーションエフェクト](MOTION EFFECT)ボタンを押して、タイプの選択画面を呼び出します。



- 2 ダialを回して好みのタイプを選びます。  
[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、[+]ボタンまたは[-]ボタンを押すと、各効果グループの先頭のタイプに移動します。
- 3 [戻る](EXIT)ボタンを押してタイプ選択画面を抜けます。

### モーションエフェクトの効果対象パート

各タイプの効果対象パートは、タイプ選択画面で次のように表示されます。

表示	対象パート
All	下記の全パート
Keyboard	メイン、デュアル、スプリット音色
StyGrv	スタイル、グループ
StyGrvDr	スタイルとグループのリズムパートのみ
StyGrvAC	スタイルとグループの伴奏(ACMP)パートのみ
Sampling	サンプリングパッド再生
KbSampl	メイン、デュアル、スプリット音色、サンプリングパッド再生

# ノブを回して自分だけの音を作る

2つのノブを回すことで、演奏音にさまざまな効果をかけ、音の印象を変化させることができます。ノブの上に印刷されている機能の組み合わせを選んで、ノブを回してみましょ。

## ノブに機能を割り当てる

[ノブアサイン](KNOB ASSIGN) ボタンを押すたびに、2つのノブに割り当てられる機能が1→2→3→4→5→6→7→1…の順番で切り替わります。

	ライブコントロール	
キーボード	1 カットオフ	レゾナンス
	2 リバーブ	コーラス
	3 DSP1 パラメーターA	DSP1 パラメーターB
バックキング	4 カットオフ	レゾナンス
	5 リバーブ	コーラス
	6 音量バランス	リトリガーレート
システム	7 DSP2 パラメーターA	DSP2 パラメーターB

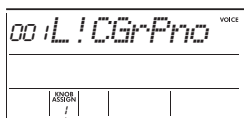
ノブアサイン



A

B

今日の機能が割り当てられているかは、画面上で確認できます。



KNOB ASSIGN



ノブに割り当てられている機能

下表のとおり、機能ごとに対象が異なります。

機能	対象	
1 カットオフ/レゾナンス	キーボード	メイン音色、デュアル音色
2 リバーブ/コーラス		
3 DSP1 パラメーターA/DSP1 パラメーターB	バックキング	メイン音色
4 カットオフ/レゾナンス		スタイル、グループ
5 リバーブ/コーラス	システム	ノブA: 外部からのオーディオ入力音、スタイル、グループ、ソング ノブB: グループ
6 音量バランス/リトリガーレート		機能設定(61ページ、機能番号043)で指定したパート
7 DSP2 パラメーターA/DSP2 パラメーターB		

ノブに割り当てられる各機能の詳細はウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

### NOTE

- 割り当てられる機能を変えただけでは、ノブの位置が中央でなくとも、演奏音に変化はつきません。ノブを回して初めて設定値の変化が反映されます。
- パネル設定やノブの動かし方によっては、ノブを回しても効果がわかりにくかったり、ノイズが出たりなど、意図と異なる動作をする場合があります。
- DSP1 効果には、機能割り当てを3にしてノブを回しても変化しないタイプもあります。
- 機能の割り当ては、[ノブアサイン](KNOB ASSIGN) ボタンを押しながらオクターブ(OCTAVE)[-]/[+] ボタンを押すことで変更できます。

## ノブを使う

ここでは、ノブの使い方の一例を紹介します。

### 1 鍵盤で鳴らす音色を選びます(22ページ)。

例として、音色番号197 SquareLd(矩形波リード)を選びます。

### 2 [ノブアサイン](KNOB ASSIGN) ボタンを何回か押して、ノブに機能1を割り当てます。

画面には1が表示されます。

### 3 ノブBを最大まで回したあと、ノブAを左手で回しながら、右手で演奏してみましょ。

カットオフ レゾナンス



A

B



### ご注意

メイン音色に効果がかかる設定にしているときに音色を変更すると、それまでノブで作った設定はリセットされて、選んだ音色に最適な設定になります。自分で作ったお気に入りの設定を残しておきたい場合は、音色を変更する前に、必ずレジストレーションメモリーに保存しておきましょう(49ページ)。

### NOTE

大きな音量でノブを右に回した場合、音がひずむことがあります。その場合は音量を下げてください。

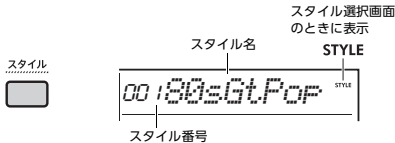
更に具体的な使用例については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)の「DJのように遊ぶ」をご覧ください。

# リズムや自動伴奏を再生しながら弾く(スタイル)

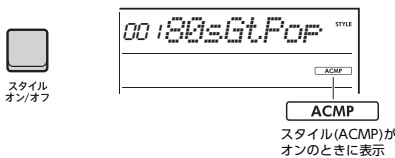
この楽器には、「スタイル」と呼ばれる、さまざまなジャンルのリズムや伴奏パターンが搭載されています。スタイルの自動伴奏機能(ACMP)を使えば、左手でコードを押さえるだけでコードに合った伴奏を自動で鳴らせます。これにより、一人で演奏しても、バンドやオーケストラの伴奏付きの演奏を楽しめます。

## スタイルを再生しながら演奏する

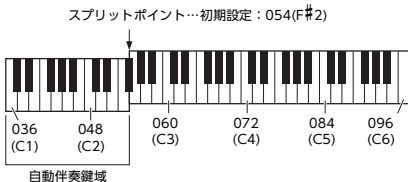
- 1 [スタイル](STYLE) ボタンを押します。  
スタイルの番号と名前が表示されます。



- 2 カテゴリーボタンやダイヤルを使ってお好みのスタイルを選びます。  
スタイルの番号や名前については、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)をご覧ください。
- 3 [スタイル オン/オフ](ACMP ON/OFF) ボタンを押して、スタイル(ACMP)をオンにします。



スタイル(ACMP)がオンのときは、スプリットポイントより左側の鍵盤がコード(和音)だけを認識する「自動伴奏領域」になります。



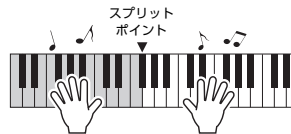
- NOTE**
- スプリットポイントは自由に変更できます(60ページ)。
  - 自動伴奏領域(左手領域)で演奏しても、メイン音色とデュアル音色は鳴らず、コードだけが認識されます。ただし、スプリットがオンのときは、スプリット音色が鳴ります。

- 4 [シンクロスタート](SYNC START) ボタンを押して、シンクロスタートをオンにします。



自動伴奏領域でコードを弾いたときにスタイルがスタートする状態になります。

- 5 自動伴奏領域でコードを弾き、スタイル再生をスタートさせます。  
左手でコードを弾き、右手でメロディーを弾いてみましょう。



コードの弾き方については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

- NOTE**
- 通常のコード入力の代わりに、指一本でコードを指定する方法(スマートコード)を使うこともできます。詳しくは「フィンガリングタイプを設定する」(31ページ)をご覧ください。

- 6 [スタート/ストップ](START/STOP) ボタンを押して、スタイル再生を終了させます。



## リズムパートだけを鳴らす

手順3で[スタイル オン/オフ](ACMP ON/OFF) ボタンを押さずに、[スタート/ストップ](START/STOP) ボタンを押すと、リズムパートだけを鳴らせます。

- NOTE**
- リズムデータを含まない一部のスタイルでは、リズムだけを鳴らそうとしたときには音が鳴りません。その場合は、スタイル(ACMP)をオンにして、自動伴奏領域でコードを弾いたときのみ、伴奏が再生されます。

## スタイル再生に変化をつける

スタイルにはイントロ、メインA/B、エンディングのセクションがあります。通常再生されるのはメインA/Bセクションですが、セクションを切り替えることで、演奏に変化をつけられます。各セクションへの切り替え方は次の通りです。

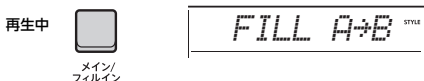
### ■ イントロ：

停止中に[イントロ/エンディング](INTRO/ENDING)ボタンを押します。再生開始後、イントロ再生が終了すると自動的にメインAまたはメインBに切り替わります。



### ■ メインA/B：

[メイン/フィルイン](MAIN/AUTO FILL)ボタンを押します。停止中の場合、メインAとメインBが切り替わります。再生中の場合は、フィルインをはさんで、メインAとメインBが切り替わります。

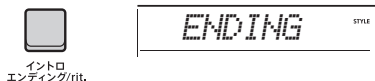


#### フィルイン：

メインのA、Bが切り替わるときに、自動的に挿入される装飾伴奏です。

### ■ エンディング：

再生中に、[イントロ/エンディング/rit.] (INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押します。セクションがエンディングに切り替わり、エンディングの再生終了と同時にスタイル再生も終了します。



エンディング再生中にもう一度[イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit.)ボタンを押すと、リタルダンドして(だんだん遅くなって)スタイル再生が終了します。

## スタイルの音量を調節する

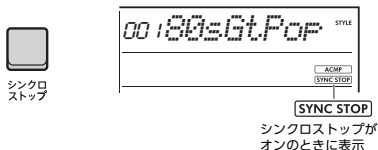
スタイルの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定(61ページ 機能番号031)で調節します。

## テンポを調節する

21ページ「テンポを調節する」をご覧ください。

## スタイルのシンクロストップを使う

[シンクロストップ](SYNC STOP)ボタンを押してオンにすると、自動伴奏鍵盤でコードを押さえている間だけスタイルが鳴り、鍵盤から指を離すとスタイル再生が止まります。[シンクロストップ](SYNC STOP)ボタンをもう一度押すとオフになります。

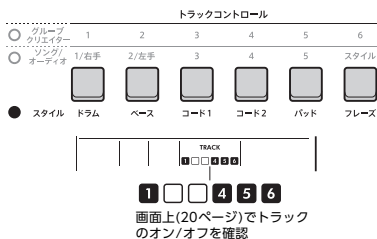


#### NOTE

この機能は、スタイル(ACMP)がオンの場合に使えます。

## スタイルのトラックをオン/オフする

スタイルは複数のトラックで構成されています。特定のトラックだけを鳴らしたり、ミュートするには、対応するトラックコントロール(TRACK CONTROL)のボタンでトラックをオン/オフします。



#### NOTE

複数のボタンを同時に押すと、2つのトラックまでまとめてオン/オフされます。

## フィンガリングタイプを設定する

スタイルを再生するとき、自動伴奏鍵域で弾くコードの弾き方をフィンガリングタイプと呼びます。この楽器では、次の2つのフィンガリングタイプから選べます。

### ● マルチフィンガー (初期設定)

コードを構成する音を弾いて自動伴奏を鳴らす弾き方です。ただし、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1〜3個押さえて簡単に弾くこともできます。

### ● スマートコード

コードのルート音(根音)だけを弾いて自動伴奏を鳴らす弾き方です。ただし、スマートコードで自動伴奏を行うには、演奏する曲の調(スマートコードキー)を設定する必要があります。

#### NOTE

各フィンガリングタイプでのコードの押さえ方については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押します。
- 2 ダialを回して、「FingType」(61ページ 機能番号032)を画面に表示させます。



- 3 [決定](ENTER)ボタンを押します。  
現在のフィンガリングタイプが表示されます。



- 4 ダialを回して、「Multi」または「SmartChd」を選びます。
- 5 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

## スマートコードキーを設定する

フィンガリングタイプでスマートコードを選択した場合、演奏前に、楽譜に記載されたシャープ(#)やフラット(b)の数から、弾く曲の調を設定します。この調のことを「スマートコードキー」と言います。

スマートコードキーは、以下の手順で設定します。

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して機能設定画面に入ります。
- 2 ダialを回して、「S.ChdKey」(機能番号033)を表示させます。



- 3 [決定](ENTER)ボタンを押します。  
現在のスマートコードキーが表示されます。
- 4 ダialを回して、楽譜に合ったスマートコードキーを設定します。  
たとえば、下記の楽譜を弾きたい場合は、スマートコードキーを「FL2(フラット2個)」に設定します。(61ページ)



- 5 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面を抜けます。

## スタイルの各パートの音色を変更する(スタイルリボイス)

この楽器では、ドラムやフレーズなど、スタイルの各トラック内で使われている音色を変更することができます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

# ソングやオーディオファイルを再生する

この楽器では、ソング(MIDIデータ)とオーディオファイルを再生することができます。どちらも、単に再生して楽しむだけでなく、再生しながら演奏することもできます。

## ソング (MIDIデータ)

この楽器では、内蔵曲や市販の曲データなどのMIDIデータを総称して「ソング」と呼んでいます。MIDIデータは、鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記憶され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、音源に演奏させることで、はじめて発音されます。鍵盤パートや音色の情報なども記録されているため、パートごとのオン/オフ、楽器(音色)の変更ができ、演奏の練習に便利です。この楽器では、楽器内のユーザーソングをMIDIファイルとしてUSBフラッシュメモリーに取り出すことができます。また、外部のMIDIファイルは、ストレージモード(53, 64ページ)でコンピューターから本体の内蔵メモリーに転送するか、USBフラッシュメモリーに入れて楽器に接続することで、ソングとして再生できます。

再生できるMIDIファイルのフォーマットは、SMF (Standard MIDI File)形式です。

## ソングカテゴリ

ソングはそれぞれの特徴によってカテゴリ分けされています。

ソング番号	ソングカテゴリ	
001-003	メイン デモ	この楽器の魅力を満載したデモ曲です。
004-011	音色 デモ	おすすめの色をフィーチャーした曲です。
012-015	ピアノ ソロ	ピアノのソロ演奏をお楽しみください。
016-020	ピアノ アンサンブル	ピアノアンサンブル曲です。ピアノとオーケストラのアンサンブル演奏をお楽しみください。
021-030	ピアノ アカパニメント	曲ジャンルに合せた伴奏パターンが味わえます。
031-040	ユーザー	自分の演奏を録音したソング(ユーザーソング)です(44ページ)。
041-	ダウンロード	コンピューターから楽器へ転送されたソング(ダウンロードソング)です(52ページ)。
	USB	USBフラッシュメモリー内のソングです。

### NOTE

- 041以降のソングについては、ダウンロードソング、USBフラッシュメモリー内のソングの順に番号が割り当てられます。コンピューターから楽器にソングを転送すると、転送したソングはUSBフラッシュメモリー内のソングの前に挿入されます。
- 容量が250KBを超えるソングは再生できません。

## オーディオファイル

演奏した音そのものを記録したデータです。ボイスレコーダーなどを使って録音するのと同じしくみで記録したものです。携帯音楽プレーヤーなどでも再生できるので、手軽に自分の演奏をほかの人に聞いてもらえます。

この楽器では、USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを再生できます。

再生できるオーディオファイルのフォーマットは、WAV形式(44.1kHz、16bit、ステレオ)です。



## デモソングを再生する

[デモ](DEMO) ボタンを押します。

ソング番号001～003が順番に演奏され、最後のソングが再生し終わると、また最初のソングに戻ってくり返し再生されます。



ストップしたいときは、もう一度[デモ](DEMO) ボタンまたは[▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押します。

## BGMとして連続再生する

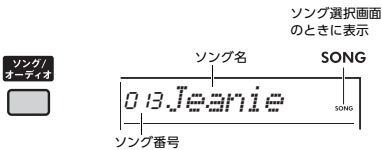
[デモ](DEMO) ボタンを押すと、初期設定では番号001～003のソングが連続再生されますが、連続再生の対象を変えたり、再生する順番をランダムに変えたりして、BGMを再生する使い方ができます。

詳細はウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

## ソングを再生する

1 [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO) ボタンを押して、SONG アイコンを点灯させます。

AUDIO アイコンが点灯した場合は、もう一度[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO) ボタンを押します。「NoUSB」と表示され、SONG アイコンが点灯しない場合は、数秒待つとSONG アイコンが点灯します。



2 ダイアルを回して好きなソングを選びます。

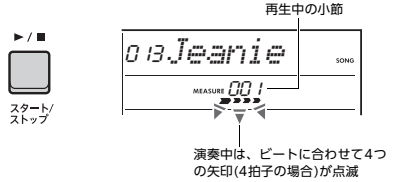
内蔵ソングの一覧については、データリストをご覧ください。  
ユーザーソング、ダウンロードソング、USBフラッシュメモリー内のソングも、同じ方法で選べます。

### NOTE

- 選べるソングは004以降です。001から003は[デモ](DEMO) ボタンで選びます。
- [シフト](SHIFT) ボタンを押しながら[-]/[+] ボタンを押すと、各カテゴリー (32ページ) の先頭のソングを順番に選べます。

3 [▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押してソングを聞いてみましょう。

もう一度[▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押すと、ソングの再生は止まります。



### NOTE

USBフラッシュメモリー内のソングやダウンロードソングの再生音がひずむ場合は、ソング音量(61ページ 機能番号035)をひずまなくなるまで下げてから、全体音量(12ページ)を上げてください。

## ソングの音量を調節する

ソングの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定(61ページ 機能番号035)で調節します。

## テンポを調節する

21ページの「テンポを調節する」をご覧ください。

## オーディオファイルを再生する

### ご注意

オーディオファイルの再生中はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れるおそれがあります。

### 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

接続については、54ページの「USBフラッシュメモリーと接続する」をご覧ください。

### 2 [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押して、AUDIOアイコンを点灯させます。

SONGアイコンが点灯した場合は、もう一度[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押します。

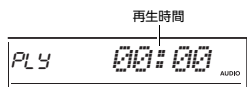


### 3 ダイアルを回して好きなオーディオファイルを選びます。

パネル右上の[-]/[+]ボタンでも選べます。[-]ボタンと[+]ボタンを同時に押すと、1曲目のオーディオファイルが選ばれます。

### 4 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押して、オーディオファイルの再生をスタートします。

再生中は「PLY」の文字と画面に再生時間が表示されます。再生を止めるときは、もう一度[▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押します。



#### NOTE 1

オーディオファイルの再生では次のことはできません。

- 音色変更
- A-Bリピート
- トラックのミュート
- テンポ変更

### メッセージ一覧

メッセージ	内容
NoUSB	USBフラッシュメモリーが接続されていません。
NoFile	USBフラッシュメモリーにオーディオファイルが入っていません。
ErrLoad	オーディオファイルのフォーマットがこの楽器に対応していないため、読み込めません。
USB Err	USBフラッシュメモリーに不具合があるときに表示されます。 • USBフラッシュメモリーが動作確認済みのものか、ウェブサイト上の動作確認済み機器リスト(54ページ)でご確認ください。 • USBフラッシュメモリーをフォーマットしてください。(56ページ)

## ソング、オーディオファイルを早送り、早戻し、一時停止する

### [▶▶](早送り)ボタン

再生中に押すと、ソング、オーディオファイルを早送ります。ソングでは、停止中に押すと小節番号が増えます。



### [◀◀](早戻し)ボタン

再生中に押すと、ソング、オーディオファイルを早戻しします。ソングでは、小節単位で早戻しされ、停止中に押すと小節番号が減ります。

### [||](一時停止)ボタン

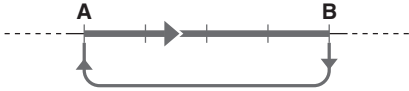
ソング、オーディオファイルを一時停止します。もう一度押すと、一時停止した位置から再生がスタートします。

#### NOTE 2

- ソング再生時に、A-Bリピートが設定されている場合、早送りや早戻しはその設定範囲内のみ可能です。
- [デモ](DEMO)ボタンを使ってソングを鳴らしているときは、[◀◀]、[▶▶]、[||]ボタンは使えません。
- DSP2がオンのときにソングの早戻しをすると、DSP2の効果が意図しない状態になることがあります。この場合、DSP2を一度オフにしてからオンにし直すか、ソングの再生を一旦止めると、DSP2の効果がもとに戻ります。

## ソングの一部をくり返して聞く (A-Bリピート)

ソング(MIDIデータ)のある特定の範囲(A点とB点)を小節単位で指定して、くり返し再生できます。



- 1 ソング再生をスタートします(33ページ)。
- 2 ソングを再生しながら、くり返し再生の開始位置(A点)にしたいポイントで[A ⇄ B](A-Bリピート)ボタンを押します。  
数秒、「A- REPEAT」と画面に表示されます。



- 3 くり返し再生の終了地点(B点)にしたいポイントに来たら、もう一度[A ⇄ B](A-Bリピート)ボタンを押します。  
これで、A-B間のくり返し再生(リピート再生)が始まります。  
数秒、「A-b REPEAT」と画面に表示され、A-Bリピートアイコンが点灯します。

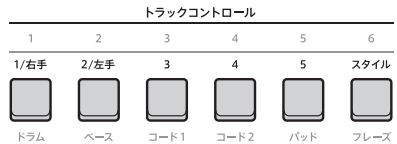
- 4 くり返し設定を取り消すには、もう一度[A ⇄ B](A-Bリピート)ボタンを押します。  
数秒、「OFF REPEAT」と画面に表示されます。  
再生を停止するには、[▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押します。

**NOTE**

- A点をソングの先頭に指定したい場合は、ソングをスタートする前に[A ⇄ B](A-Bリピート)ボタンを押して設定します。
- B点をソングの最後に指定したい場合は、A点を指定してから、ソングを最後まで再生させます。

## ソングの各トラックをミュート (消音)する

ソングの各トラックは、それぞれメロディーやリズム、伴奏など、異なるパートを鳴らしています。一部のトラックをミュートして自分で弾いたり、特定のトラックだけを鳴らしたりすることができます。トラックをミュートするには、ミュートしたいトラックのボタン([1/右手]~[5]、[スタイル])を押します。ミュートを解除するには、もう一度同じボタンを押します。



トラックの状態は画面で確認できます。



**NOTE**

複数のボタンを同時に押すと、2つのトラックまでまとめてオン/オフされます。

# マイクを接続して弾き語りをする

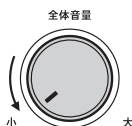
[MIC INPUT]端子にマイクを接続すると、歌声にリバーブやコーラスをかけて、弾き語りができます。マイクから入力された音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。また、歌と歌との合間にトークを入れたときは、トーク用の設定に切り替えることもできます。

## ⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量を最小にしてください。感電または機器の損傷の原因になります。

## マイクを接続する

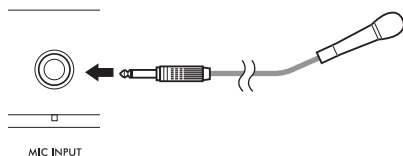
- 1 楽器の電源を入れる前に、[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。



- 2 リアパネルの[GAIN]ノブを中央に設定します。



- 3 リアパネルの[MIC INPUT]端子(モノラル標準フォーン)にマイクを接続します。マイクにスイッチがある場合は、手順4の前にマイクのスイッチをオンにします。



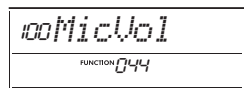
### NOTE

マイクはダイナミックマイクロフォンをお使いください。

- 4 楽器の電源を入れます。
- 5 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールで全体音量を調節します。



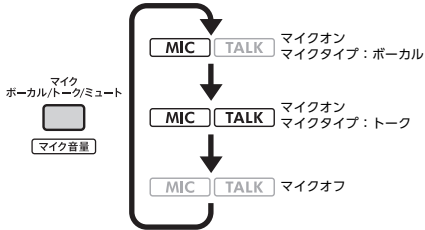
- 6 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[マイクボーカル/トーク/ミュート](MIC VOCAL/TALK/MUTE)ボタンを押して、マイク音量設定画面を呼び出します。



- 7 マイクに向かって声を出しながら、ダイヤルを回してマイク音量を調節します。ダイヤルを回しても、マイク音量が適切な大きさにならないときには、リアパネルの[GAIN]ノブを回して調節します。
- 8 [機能](FUNCTION)ボタンを押して機能設定画面を抜けます。
- 9 鍵盤を弾いたり、ソングを再生したりしながら、歌ってみましょう。

## マイクを使ってトークする

[マイク ボーカル/トーク/ミュート](MIC VOCAL/TALK/MUTE) ボタンを押して、マイクタイプをトークに切り替えます。



マイクタイプがトークのときには、リバーブとコーラスがオフになり、パンがセンターになります。

## マイクのパン(定位)を調整する

マイク音の定位(音の位置)を調整できます。機能設定(62ページ 機能番号045)で設定します。

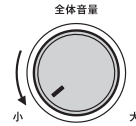
## マイクにリバーブとコーラスをかける

マイクに入力された歌声に、リバーブをかけてホールで歌っているかのように響かせたり、コーラスをかけて音に厚みや自然なゆらぎを与えることができます。機能設定(62ページ)で設定します。

- ・リバーブ：機能番号046
- ・コーラス：機能番号047

## マイクを外す

- 1 [全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを左に回し、音量を最小にします。



- 2 楽器の電源を切ります。
- 3 [MIC INPUT]端子からマイクを外します。

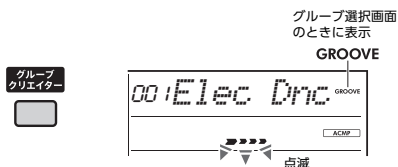
# グループクリエイターで遊ぶ

グループクリエイターとは、内蔵されたさまざまなダンスミュージックのリズムやフレーズ(グループ)を組み合わせて、グループ感のある演奏を作り上げる機能です。グループを鳴らしながら、左手鍵域でキー(調)を変えたり、ノブを回してサウンドをコントロールすることができ、曲の盛り上がりを表現できます。

## グループを再生する

1 [グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタンを押してから、ダイヤルを回して好きなグループを選びます。

スタイル(ACMP)が自動的にオンになり、鍵盤が自動伴奏鍵域(29ページ)とメロディー鍵域に分かれます。



### NOTE

- [シフト](SHIFT)ボタンを押しながら[-]/[+]ボタンを押すと、各音楽ジャンルの先頭のグループを順番に選べます。
- グループの一覧、音楽ジャンルカテゴリーについては、ウェブサイト上のデータリスト(11ページ)をご覧ください。

2 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押してグループ再生をスタートさせます。

自動伴奏鍵域(29ページ)の鍵盤を押すことでスタートできます。



グループの再生中に、サウンドに変化をつけることができます。詳しくは右記「グループの音に変化をつける」をご覧ください。

3 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押してグループ再生をストップします。

## グループの音量を調節する

グループの音量を調節することにより、鍵盤演奏とのバランスをとることができます。機能設定(61ページ 機能番号034)で調節します。

## テンポを調節する

21ページの「テンポを調節する」をご覧ください。

## タップ機能を使う

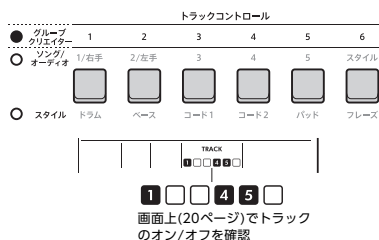
21ページの「タップ機能を使う」をご覧ください。

## グループの音に変化をつける

グループの再生中に以下の操作で、サウンドにいろいろな変化をつけることができます。

### ●各トラックをオン/オフする

トラックコントロール(TRACK CONTROL)の[1]~[6]ボタンを押して、各トラックをオン/オフします。

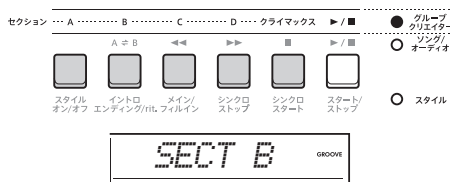


### NOTE

複数のボタンを同時に押すと、2つのトラックまでまとめてオン/オフされます。

### ●セクションを切り替える

セクション(SECTION)の[A]~[D]ボタンを押して、セクションを切り替えます。



### ●[クライマックス](MUSICAL CLIMAX)ボタンを使う

このボタンを押すと、画面に数小節間のマイナスのカウントが表示されます。カウントが進むにつれて曲が盛り上がっていき、カウント0のタイミングでクライマックス(最高潮)に達します。

カウント0のタイミングで他のセクションや他のグループに切り替えることで、会場を盛り上げることができます。

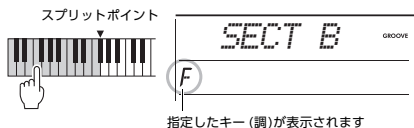
また、カウント0以降は、数小節の再生の後で停止するので、エンディングとしても使えます。

### ● リトリガー機能を使う

リトリガー機能とは、再生中グループのセクションの先頭部分をくり返し再生する機能です。使い方について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

### ● キー(調)を変える

自動伴奏鍵域(29ページ)の鍵盤を押します。



### ● ノブを回してサウンドを変える

[ノブアサイン](KNOB ASSIGN) ボタンを何度か押して、機能4~6のうちの一つを選び、ノブを回します。ノブの効果については、28ページをご覧ください。

### ● 右手鍵域にアルペジオをかける

機能設定(62ページ 機能番号050)でアルペジオのタイプを選んで、[ハーモニー/アルペジオ](HARMONY/ARPEGGIO) ボタンを押してアルペジオをオンにしてから、右手鍵域の鍵盤を押さえます。アルペジオについて詳しくは、24ページをご覧ください。

#### NOTE

- スプリットがオンのときは、左手鍵域を押さえたときのみアルペジオがかかります。また、同時にグループのキーも変わります。
- 353~362の音色を選んだ場合は、自動的にスプリットとアルペジオがオンになります。

# クイックサンプリングを使う

この楽器には音をサンプリングし、パッドを押して再生できる機能「クイックサンプリング」が搭載されています。

## サンプリング

曲や音源の一部を録音し、演奏に使用できる「サンプル」を作ることです。サンプルは通常のオーディオファイルと異なり、効果音のように使ったり、ループさせてリズムパターンのように使ったりすることができます。

サンプリング可能な入力音は、以下の3種類です。

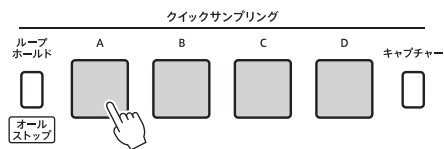
- ・ [AUX IN]端子に接続した外部機器からの音声(52ページ)
- ・ [MIC INPUT]端子に接続したマイクからの音声(36ページ)
- ・ [USB TO HOST]端子に接続したコンピューターやスマートフォン、タブレットなどからの音声(52ページ)

また、USBフラッシュメモリーに保存されたWAVファイルを、サンプルとして登録することもできます(43ページ)。

この楽器には初期設定でもサンプル(サンプリングされた音声)が入っています。まずは鳴らしてみましょう。

## サンプルを再生する

- 1 任意のクイックサンプリングパッド[A]～[D]を押します。



押したパッドが点灯し、パッドを押している間だけサンプルが再生されます。

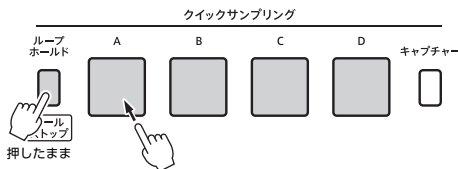
パッドを押し続けた場合、サンプルが最後まで再生されたら、再生は止まります。これを「ワンショット再生」といいます。

- 2 クイックサンプリングパッドから指を離します。

サンプルが再生中だった場合はパッドが消灯し、サンプルの再生が止まります。

## サンプルをループ再生する

- 1 [ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押したまま、任意のクイックサンプリングパッド[A]～[D]を押します。



パッドから指を離しても、押したパッドが点灯し、サンプルが鳴り続けます。

サンプルが最後まで再生されたら、もう一度先頭から再生されます。これを「ループ再生」といいます。

- 2 点灯しているクイックサンプリングパッドを押します。

パッドが消灯し、サンプルのループ再生が止まります。

### NOTE

- ・ クイックサンプリングパッド[A]～[D]は互いに独立しています。それぞれワンショット再生またはループ再生ができます。
- ・ 4つのサンプルすべてを同時に再生できます。
- ・ すべてのサンプルの再生を同時に止めるには、[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[ループホールド](LOOP HOLD)ボタンを押します。
- ・ 各クイックサンプリングパッドのサンプルの音量は、機能設定(62ページ、機能番号049)で変更できます。
- ・ パッドの再生には、音源の同時発音数を使います。
- ・ スタイルやグループ、ソングの再生などと合わせて多数の音を同時に鳴らした場合、ループ再生中のパッドが点灯したまま消音されることがまれにあります。その場合は、一度パッドを押して消灯させてから、もう一度手順1を実行してループ再生を開始してください。この現象が頻発する場合は、同時に使う音の数を減らして演奏してください。



## サンプリングの準備をする

サンプリングするための外部機器を接続し、録音できる十分な音量になるように調節します。

### NOTE

音声入力の音量が小さすぎると、サンプリングができません。

- 1 楽器本体の音量を最小にします。
- 2 サンプリングする外部機器を接続します。  
各外部機器の接続方法について詳しくは、下記ページをご覧ください。
  - ・[AUX IN]端子: 52ページ
  - ・[MIC INPUT]端子: 36ページ
  - ・[USB TO HOST]端子: 52ページ
- 3 入力される音量を十分に大きくします。
  - ・[AUX IN]端子:  
外部機器の再生音量を最大にします。
  - ・[MIC INPUT]端子:  
リアパネルの[GAIN]ノブを最大にします。
  - ・[USB TO HOST]端子:  
コンピューター/スマートデバイス上で、MIDIファイルやオーディオファイルの再生音量を最大にします。

### NOTE

- ・[AUX IN]端子に接続した外部機器の音量を最大にしても再生音が小さいときは、機能設定(64ページ)の機能番号068 [AuxInVol] で音量を上げて調節できます。ただし、値が初期設定の50を上回ると、音がひずむ場合があります。
- ・コンピューター/スマートデバイス上の再生音量を最大にしても入力音が小さいときは、機能設定(64ページ)の機能番号069 [USBNInVol] で音量を上げて調節できません。

- 4 楽器本体の[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを回して、スピーカーから出る音量を調節します。

### NOTE

スピーカーから出る音量そのものは、サンプリング結果には影響しません。

## サンプリングをする

音声入力をサンプリングし、クイックサンプリングパッド[A]~[D]のうち1つに登録します。

### NOTE

- ・サンプリングレートは44.1kHz、16bit、ステレオです。
- ・登録したサンプルは、USBフラッシュメモリーに保存できません(43ページ)。

- 1 サンプリングの準備をします。  
音声入力の準備をします。詳しくは「サンプリングの準備をする」をご覧ください。

### ご注意

サンプリングを実行すると、登録済みのサンプルは上書きされ、失われます。大切なサンプルは、USBフラッシュメモリーに保存してください(43ページ)。

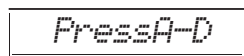
### NOTE

- ・メロディーキャンセル機能(52ページ)を使った状態でサンプリングしたい場合は、サンプリングモードに入る前に設定します。
- ・サンプリングの先頭および末尾の無音部分を自動でカットしたい場合は、機能設定 [BlankCut] (62ページ、機能番号048)を [ON] にします。

- 2 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードに入ります。

画面に「PressA-D」と表示されます。

キャプチャー

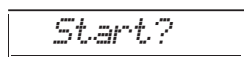


### NOTE

サンプリングを中止するときは、もう1度[キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押してクイックサンプリングモードから抜けます。

- 3 サンプルを登録したいクイックサンプリングパッドを押します。

パッドが点滅し、画面に「Start?」と表示されます。



### NOTE

パッドを選び直したい場合は、別のパッドを押すか、[戻る](EXIT)ボタンを押します。

- 4 外部機器の再生を、サンプリングしたい音やフレーズの頭の位置で停止します。またはマイクに向かって音を出す準備をします。

## 5 点滅しているパッドを押して、サンプリングを開始します。

画面に「Sampling」と表示されます。



### ご注意

サンプリング中はUSBフラッシュメモリーの抜き挿しをしないでください。楽器の動作が不安定になり、サンプリングが正しく行われない場合があります。

### NOTE

「決定」(ENTER)ボタンを押すでもサンプリングが始まります。

## 6 外部機器の再生を開始します。または、マイクに向かって音を出します。

### NOTE

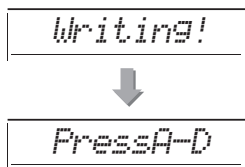
外部機器またはマイクからの音量が小さすぎた場合は、「LowInput」と表示され、サンプリングがキャンセルされます。その後、手順3の状態に戻ります。

## 7 サンプリングしたい音やフレーズの終わりの位置で、音声入力を止めます。

外部機器を再生している場合は、再生を停止します。マイクを使っている場合は、音を止めます。

## 8 点灯しているパッドをもう一度押して、サンプリングを終了します。

画面に「Writing!」と表示され、サンプルが上書き保存されます。パッドが消灯し、サンプリングが終わり、手順2の状態に戻ります。



### NOTE

サンプリングできる時間は最大約9.6秒です。制限時間を超えると、サンプリングが自動的に終了し、そこまでのサンプルが保存されます。

## 9 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押してクイックサンプリングモードから抜けます。

## 10 クイックサンプリングパッドを押して、サンプルを再生してみましょう。

### 音を流しながらサンプリングする方法

サンプリングの操作に慣れてきたら、外部機器からの音を流しながらサンプリングすることもできます。

1. 「サンプリングをする」(41ページ)の手順2、3を行います。
2. サンプリングしたい音やフレーズの数小節前の位置で、外部機器の再生を停止します。
3. 外部機器の再生を開始します。
4. 開始したいところで点滅しているパッドを押して、サンプリングを開始します。
5. 終了したいところでパッドを押して、サンプリングを終了します。
6. 外部機器の再生を止め、サンプリングの結果を確認しましょう。

### NOTE

録音したい空白部分がカットされてしまうときは、機能設定「BlankCut」(62ページ、機能番号048)を「OFF」にします。

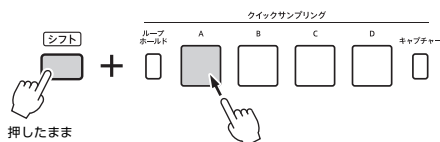
## 初期設定のサンプルに戻す

クイックサンプリングパッドごとに、自分で登録したサンプルを削除して、初期設定のサンプルに戻せます。

### ご注意

登録したサンプルは、初期設定のサンプルに戻すと失われます。大切なサンプルは、初期設定に戻す前にUSBフラッシュメモリーに保存してください。

- 1 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押して、クイックサンプリングモードに入ります。
- 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、削除したいサンプルが登録されているクイックサンプリングパッドを押します。  
パッドが点滅し、画面に「ClrSMPL?」と表示されます。



- 3 [決定](ENTER)ボタンを押します。  
クイックサンプリングパッドが点灯し、画面に「Sure?」と表示されます。  
キャンセルするときは、[戻る](EXIT)ボタンを押します。キャンセルすると、クイックサンプリングパッドが消灯し、手順2に戻ります。
- 4 再度[決定](ENTER)ボタンを押します。  
画面に「Writing!」と表示され、クイックサンプリングパッドが消灯し、初期設定のサンプルが保存されます。
- 5 [キャプチャー](CAPTURE)ボタンを押してクイックサンプリングモードから抜けます。

## USBフラッシュメモリー内のWAVファイルをサンプルとして取り込む

USBフラッシュメモリーに保存されたWAVファイルを、楽器内蔵メモリーにサンプルとして取り込み、クイックサンプリングパッドに割り当てることができます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

## サンプルをUSBフラッシュメモリーに保存する

クイックサンプリングパッド[A]~[D]に登録されたサンプルを、パッド単位でサンプルファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存できます。また、保存されたサンプルファイルは、読み込んでパッドに再登録できます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

# 自分の演奏を録音する

この楽器では、以下の2つの方法で自分の演奏を録音できます。

## ソング録音

自分の演奏を、ユーザーソングとして、内蔵メモリーに録音します。編集しやすいのが特長で、トラックごとに録音する、録音後にトラックごとに消去する、トラックごとに録音し直す、などができます。ユーザーソングは最大10曲、合計約19,000音符まで録音できます。ユーザーソングは、USBフラッシュメモリーにMIDIファイルとして書き出して、他のMIDI機器やシーケンサーでデータを再生/編集できます(57ページ)。

## オーディオ録音

演奏した音そのものを、オーディオファイルとして、USBフラッシュメモリーに録音します。[MIC INPUT]端子、[AUX IN]端子、[USB TO HOST]端子からの入力音も録音できます。オーディオファイルのフォーマットはWAV形式(44.1kHz、16bit、ステレオ)で、最大録音時間は80分です。オーディオファイルは、コンピューターやスマートデバイスに転送し再生できます。

## ユーザーソングを新規録音する

ここでは、トラックを指定せず、新しいソングとして内蔵メモリーに録音する方法を説明します。

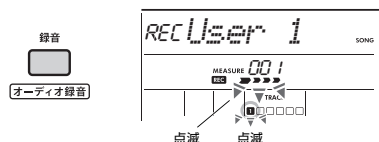
1 メイン音色の選択など、必要なパネル設定を行います。

2 録音したい演奏の設定をします。

- メロディー演奏だけを録音したい場合は、[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押します。
- スタイルを使った演奏を録音したい場合は、[スタイル](STYLE)ボタンを押します。
- グループを使った演奏を録音したい場合は、[グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタンを押します。

3 [録音](REC)ボタンを押して、録音待機状態に入ります。

ユーザーソング031~040 (User 1~10)の中から、まだ録音されていない最も小さい番号のユーザーソングが、録音データの保存先として選ばれます。



### NOTE

録音待機中は、スタイル(ACMP)のオン/オフはできません。

録音待機状態から抜きたい場合は、[録音](REC)ボタンをもう一度押します。

4 録音を始め、演奏しましょう。

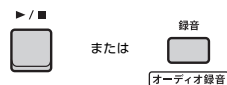
手順2で押したボタンによって、録音開始の動作が異なります。

- [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタン: どの鍵盤を押しても録音が始まります。
- [スタイル](STYLE)ボタン: 自動伴奏鍵域でコードを指定すると録音およびスタイル再生が始まります。[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すとリズムだけが再生され、鍵盤を押すと録音が始まります。
- [グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタン: 自動伴奏鍵域でキーを指定する、または[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押すと、録音およびグループの再生が始まります。



録音中は現在の小節番号が画面に表示されます。

5 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押すか、[録音](REC)ボタンを押して、録音をストップします。



録音が終わると、「Writing!」と表示され、データが保存されます。保存が終わると、録音したトラック番号が表示されます。

**ご注意**

「[Writing!」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししないでください。データが失われます。

**NOTE**

スタイルやグループクリエイターを使って演奏しているときは、次の方法で自動的に録音を終了することもできます。

- **スタイル**：[イントロ/エンディング/rit.](INTRO/ENDING/rit) ボタンを押して、スタイルの再生が終了するのを待つ。
- **グループクリエイター**：[クライマックス](MUSICAL CLIMAX) ボタンを押してグループの再生が終了するのを待つ。

## 6 録音された演奏を聞くには、[▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押します。

**NOTE**

リトリガーを使ったグループを録音した場合、録音されたソングの再生と、画面上のビート表示やメトロノーム/リアルペジオ再生とは同期しません。

**ソング録音中の制限事項**

- スタイル(ACMP)のオン/オフは切り替えられません。
- スタイル再生とグループ再生の切替はできません。
- グループ番号は切替できますが、スタイル番号は切替できません。
- スタイル/グループの録音時、リバーブタイプ、コーラスタイプ、拍子およびスタイル/グループボリュームを変更することはできません。
- クイックサンプリング[A]～[D]/パッドの演奏は録音されません。
- 外部からのオーディオ入力音(接続したコンピューターまたはオーディオ機器での再生音)は録音されません。

**ソングのトラック構成**

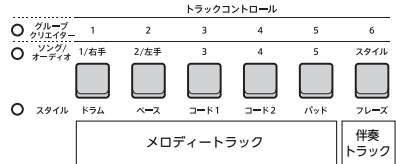
ソングには、6つのトラック(パート)があります。

● **メロディートラック[1/右手]～[5]**

メロディー演奏が録音されます。

● **伴奏トラック[スタイル]**

スタイル演奏のコード進行や、グループのキー変更が録音されます。



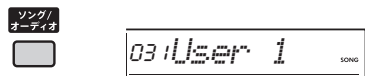
トラックを指定せずに録音した場合は、メロディーはトラック[1/右手]に、伴奏(スタイルのコード/グループのキー)はトラック[スタイル]に保存されます。このとき、録音済みのユーザーソングを選んでいた場合は、そのソングのトラック[1/右手]とトラック[スタイル]に、上書き録音されます。右手または左手パートだけでなく、1トラックずつ録音して1曲に仕上げることもできます。

**トラックを指定してユーザーソングを録音する**

ここでは、トラックを指定してユーザーソングを録音する方法を説明します。録音済みのユーザーソングに演奏を追加したり、録音済みの一部のトラックだけ録音し直したりしたい場合などに便利です。

## 1 [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO) ボタンを押して、SONGアイコンを点灯させます。

AUDIOアイコンが点灯した場合は、もう一度[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO) ボタンを押します。「No USB」と画面に表示され、SONGアイコンが点灯しない場合は、数秒待つとSONGアイコンが点灯します。



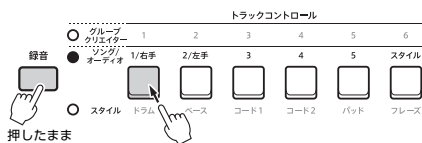
## 2 ダialを回して、録音したいユーザーソング 031～040 (User 1～10) を選びます。

### 3 上書き録音するトラックを指定して、録音待機状態に入ります。



#### ●メロディー演奏だけを録音したい場合

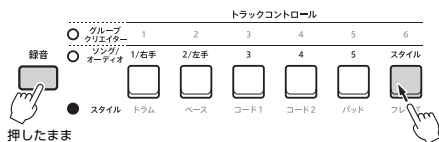
[録音](REC)ボタンを押したまま、録音したいトラックのボタン([1/右手]~[5])を押します。



#### ●スタイル演奏だけを録音したい場合

[スタイル](STYLE)ボタンを押して、スタイルを選びます。

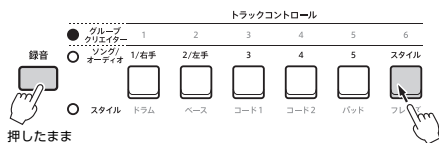
[録音](REC)ボタンを押したまま、[スタイル](A)ボタンを押します。スタイル(ACMP)が自動的にオンになります。



#### ●グループだけを録音したい場合

[グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタンを押して、グループを選びます。スタイル(ACMP)が自動的にオンになります。

[録音](REC)ボタンを押したまま、[スタイル](A)ボタンを押します。



### 4 「ユーザーソングを新規録音する」(44ページ)の手順4~6と同じです。

#### NOTE

録音中に内蔵メモリーがいっぱいになった場合は、メッセージが表示され、録音が終了します。クリア機能(下記)により空きメモリーを増やしたあとで、録音をやり直してください。

## ユーザーソングを消去する (ソングクリア)

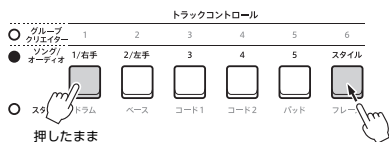
録音済みのユーザーソングを1曲すべて(全トラック)を消去します。

#### 1 [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押して、SONGアイコンを点灯させます。

AUDIOアイコンが点灯した場合は、もう一度[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押します。「No USB」と画面に表示され、SONGアイコンが点灯しない場合は、数秒待つとSONGアイコンが点灯します。

#### 2 ダイヤルを回して、消去したいユーザーソング031~040 (User 1~10)を選びます。

#### 3 [1/右手](1/RIGHT)ボタンを押したまま[スタイル](A)ボタンを押します。



確認の画面が表示されます。



#### 4 [決定](ENTER)ボタンを押します。

画面に「Sure ?」と表示されます。キャンセルするときは、[戻る](EXIT)ボタンを押します。

#### 5 もう一度[決定](ENTER)ボタンを押すと、消去が実行されます。

画面に「Writing !」と表示され、ソングが消去されます。

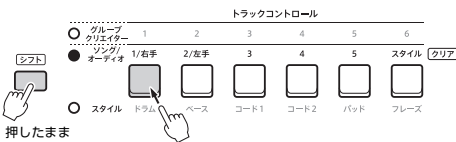
## ユーザーソングの特定のトラックを消去する(トラッククリア)

録音済みのユーザーソングのひとつのトラックを選んで、そのトラックのデータだけを消去します。

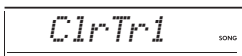
- 1 [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押して、**SONGアイコン**を点灯させます。  
AUDIOアイコンが点灯した場合は、もう一度[ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)ボタンを押します。「No USB」と画面に表示され、SONGアイコンが点灯しない場合は、数秒待つとSONGアイコンが点灯します。

- 2 ダイヤルを回して、消去したいユーザーソング031~040 (User 1~10)を選びます。

- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま、消去したいトラックのボタン([1/右手]~[5]、[スタイル])を押します。



確認の画面が表示されます。



- 4 [決定](ENTER)ボタンを押します。  
画面に「Sure ?」と表示されます。キャンセルするときは、[戻る](EXIT)ボタンを押します。
- 5 もう一度[決定](ENTER)ボタンを押すと、消去が実行されます。  
画面に「Writing !」と表示され、指定したトラックのデータが消去されます。

## USBフラッシュメモリーにオーディオファイルを録音する

演奏をオーディオファイルとして、USBフラッシュメモリーに録音します。

### ご注意

USBフラッシュメモリーをお使いになる前に、必ず[[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意](54ページ)をご覧ください。

### NOTE

オーディオ録音機能を使うときは、電源アダプターをご使用ください。電池をご使用の場合は、オーディオ録音機能は使えません。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。

- 2 録音したい演奏の設定をします。

機能によって録音できるものが異なります。

#### ・スタイル選択時：

スタイル、鍵盤演奏、オーディオ入力([MIC INPUT]/[AUX IN]/[USB TO HOST]端子)

#### ・ソング選択時：

鍵盤演奏、オーディオ入力([MIC INPUT]/[AUX IN]/[USB TO HOST]端子)

#### ・グループクリエイター選択時：

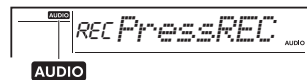
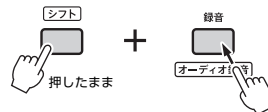
グループ、鍵盤演奏、オーディオ入力([MIC INPUT]/[AUX IN]/[USB TO HOST]端子)

### NOTE

メトロノーム音、ソングはオーディオ録音できません。

- 3 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[録音](REC)ボタンを押して、オーディオ録音の待機状態に入ります。

画面左上の**AUDIO**と「PressREC」の文字が表示されます。



### NOTE

この状態から抜きたいときは、もう一度[シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[録音](REC)ボタンを押します。

#### 4 [録音](REC)ボタンを押して録音を開始します。

録音中は画面に録音時間が表示されます。  
録音時間は、最長80分、またはUSBフラッシュメモリーの容量がいっぱいになるまでです。  
スタイルやグループを録音する場合は、[▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押してスタイルまたはグループの演奏を再生/停止させます。

##### ご注意

録音中はUSBフラッシュメモリーを抜いたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリーのデータが壊れるおそれがあります。

##### NOTE

[▶/■](スタート/ストップ)ボタンはスタイルまたはグループの再生/停止をさせるだけで、録音の開始/停止はできません。

#### 5 [録音](REC)ボタンを押して録音をストップします。

「Writing!」と表示され、演奏が保存されます。保存が終わると「Complete」が表示され、録音したオーディオファイル名が「AUDIO\*\*\*」(\*\*\*は数字)と表示されます。

##### ご注意

「Writing!」表示中に電源を切ったり、電源アダプターを抜き差ししないでください。データが失われます。

#### 6 [▶/■]ボタンを押して録音したオーディオファイルを再生してみましょう。

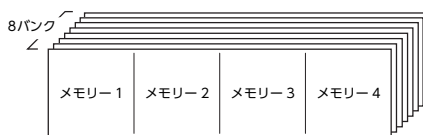
#### メッセージ一覧

メッセージ	内容
NoUSB	USBフラッシュメモリーが接続されていません。
UseAdpt	電池で駆動しています。電源アダプターを接続してください。
FileFull	USBフラッシュメモリーに保存できるファイル数の上限を超えています。不要なファイルを削除するか、別のUSBフラッシュメモリーを使ってください。
Unformat	USBフラッシュメモリーがフォーマットされていません。フォーマットしてください(56ページ)。
Protect	USBフラッシュメモリーがプロテクトされています。
TimeUp	録音時間が80分を超えました。録音を停止し、オーディオファイルが作成されます。
DiskFull	USBフラッシュメモリーの容量がなくなりました。録音を停止し、オーディオファイルが作成されます。
USB Err	USBフラッシュメモリーに不具合があるときに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• USBフラッシュメモリーが動作確認済みのものか、ウェブサイト上の動作確認済み機器リスト(54ページ)でご確認ください。</li> <li>• USBフラッシュメモリーをフォーマットしてください(56ページ)。</li> </ul>



# 好みの設定を記憶させる(レジストレーションメモリー)

レジストレーションメモリーは、楽器(音色)やスタイルなど、パネル設定をボタンに登録し、演奏中でもワンタッチで呼び出せる機能です。4つのレジストレーションメモリーボタンに登録した設定を1バンクとして扱い、8バンク登録できます。



32種類(8バンク×4)の設定を記録できる

## NOTE

お買い上げ時には、バンク1~8に設定例が登録されています。

## パネル設定をレジストレーションメモリーに記録する

- 1 本体の設定(音色、スタイル、グループなど)を、記録させたい状態にします。

### NOTE

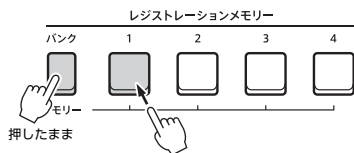
ソング再生中は、レジストレーションメモリーへの記録はできません。

- 2 [バンク/メモリー] (BANK/MEMORY) ボタンを何度か押して、バンク番号(1~8)を選びます。



設定が保存されているレジストレーションメモリー番号が点灯します。

- 3 [バンク/メモリー] (BANK/MEMORY) ボタンを押したまま、[1]~[4]ボタンを押します。



画面に「MemOK」と表示され、レジストレーションメモリー番号が点滅します。設定が保存されると、レジストレーションメモリー番号が点灯します。

## ご注意

すでにデータが記録されているレジストレーションメモリー番号を選択すると、データが上書きされ、以前のデータは消えてしまいます。

## レジストレーションメモリーに記録できる設定内容

- スタイル設定**: スタイル番号、スタイル オン/オフ、スタイル音量、トラックオン/オフ、メインセクションA/B、テンポ、フィンガリングタイプ、スマートコードキー
- グループ設定**: グループ番号、グループ音量、セクション、トラックオン/オフ、テンポ
- 楽器(音色)**
  - ・メイン音色: 音色番号、および機能設定(60ページ)の全項目
  - ・デュアル音色: オン/オフ、および機能設定の全項目
  - ・スプリット音色: オン/オフ、および機能設定の全項目
- エフェクト**: リバースタイプ、リバーストータルレベル、コーラスタイプ、モーションエフェクトタイプ
- ハーモニー/アルペジオ**: オン/オフ、および機能設定の全項目
- DSP**: DSP2オン/オフ、DSP1/2タイプ、DSP2効果対象パート、ノブのパラメーター A/Bの値
- その他**: トランスポーズ、ピッチバンドレンジ、ノブアサイン、スプリットポイント、スケールチューン、サンプリングパッド音量、ペダル機能、オクターブ(OCTAVE)[-][+]  
ボタンの設定

## NOTE

クイックサンプリング機能(40ページ)のサンプルは、レジストレーションメモリーには記録されません。

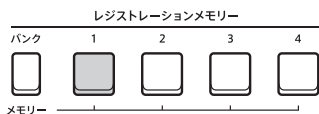
## 記録済みのパネル設定を呼び出す

- 1 [バンク](BANK)ボタンを何度か押して、バンク番号(1~8)を選びます。



設定が保存されているレジストレーションメモリー番号が点灯します。

- 2 メモリー (MEMORY) [1]~[4]ボタンを押します。



呼び出されたレジストレーションメモリー番号が、数秒間表示されます。これで希望するパネル設定が呼び出されました。



### NOTE

ソング/オーディオ(SONG/AUDIO)ランプ点灯時は、スタイルやグループクリエイターの設定を記憶させたレジストレーションメモリーボタンを押しても、設定は呼び出されません。このような場合は、[スタイル](STYLE)または[グループクリエイター] (GROOVE CREATOR) ボタンを押したあと、レジストレーションメモリーボタンを押して、スタイルやグループクリエイターの設定を呼び出してください。

## 登録したパネル設定のうち、呼び出したくない項目を指定する(フリーズ)

レジストレーションメモリーにはさまざまな設定を登録し、一度に呼び出すことができますが、演奏の場面によっては、特定の設定だけを変更せずに、レジストレーションメモリーを使いたいことがあるかもしれません。たとえば、スタイルだけを変更せずに、音色の設定やエフェクトの設定を切り替えたいときなどです。このような場合に「スタイルフリーズ」をオンにしていると、レジストレーションメモリーのボタンを押しても、スタイル関連の設定だけは現状のまま維持(フリーズ)できます。各フリーズ機能については、機能設定(64ページ)で設定します。

- スタイルフリーズ(StyleFrz) : 機能番号 073
- トランスポーズフリーズ(TransFrz) : 機能番号 074
- 音色フリーズ(VoiceFrz) : 機能番号 075

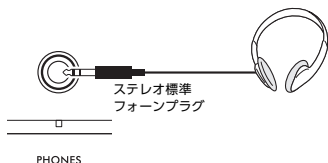
# 外部機器と接続する

## ⚠ 注意

外部機器と接続する前に、すべての機器の電源を切ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器の音量を最小にしてください。感電または機器の損傷の原因になります。

## 別売のヘッドホンを使う

ヘッドホン用を[PHONES]端子に接続します。ヘッドホン用を接続すると、自動的にこの楽器のスピーカーからは音が出なくなります。



## ⚠ 注意

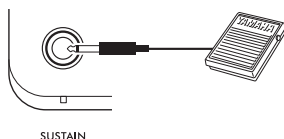
大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

### NOTE

機能設定(64ページ)の機能番号079「Speaker」を「1(HPSwitch)」以外に設定すると、ヘッドホンの接続の有無に関係なくスピーカーをオンまたはオフにできます。

## ペダル(フットスイッチ)を使う

別売のフットスイッチ(FC5またはFC4A)を[SUSTAIN]端子に接続すると、サステイン、アーティキュレーション(25ページ)、アルペジオ(24ページ)の3つの機能をコントロールできます。



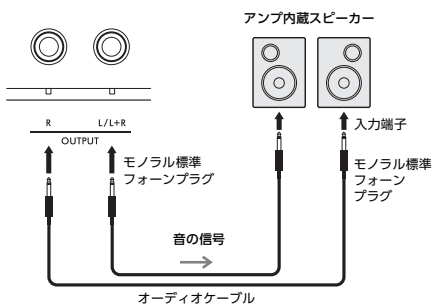
初期設定ではサステイン機能が割り当てられています。ピアノのダンパーペダルと同様に、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を響かせることができます。サステイン以外の機能を使う場合は、機能設定(62ページ)機能番号054)で設定します。

### NOTE

- フットスイッチのプラグは、電源を切った状態で抜き差ししてください。また、フットスイッチを踏んだまま電源を入れないうでください。フットスイッチのオン/オフが逆になります。
- スプリット音色(23ページ)にはサステインはかかりません。
- 音色によっては、フットスイッチを離すまで音が減衰せず持続します。

## 楽器の音を外部スピーカーから鳴らす

[OUTPUT]端子を使ってアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で迫力ある演奏ができます。



楽器の[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールを使って、外部機器への出力音量を調節できます。

### ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、この楽器の音を外部機器に出力するときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に電源を切ってください。
- オートパワーオフ機能(17ページ)により、自動的に楽器の電源が切れることがあります。一定時間本体を操作しない場合は、外部機器の電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。
- OUTPUT端子の出力を[AUX IN]端子に直接つなごうとしないでください。また、OUTPUT端子で外部機器と接続した場合も、その外部機器の出力端子を[AUX IN]端子に接続しないでください。これらの形で接続した場合、[AUX IN]端子に入力された音はOUTPUT端子からそのまま出力され、発振が起こり、両機器の故障の原因になります。

### NOTE

- オーディオケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- モノラル機器と接続する場合は、[L/L+R]端子をお使いください。

## 本体スピーカーをオフに設定する

機能設定(64ページ)の機能番号079「Speaker」を、「3(SP Off)」に設定します。

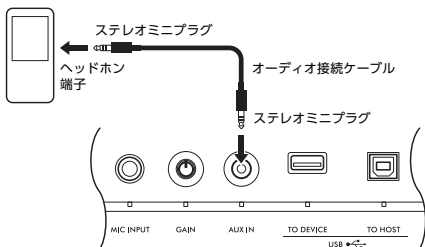
## オーディオ機器の音をこの楽器で鳴らす

楽器の[AUX IN]端子に、スマートフォンなどのオーディオ機器を接続すれば、楽器本体のスピーカーからオーディオ機器の再生音を鳴らし、再生に合わせて鍵盤を弾くことができます。

### ご注意

楽器の損傷を防ぐため、外部機器の音をこの楽器から鳴らすときは、最初に外部機器、次にこの楽器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初にこの楽器、次に外部機器の順に電源を切ってください。

- 1 オーディオ機器のヘッドホン端子と楽器本体の[AUX IN]端子をオーディオケーブルで接続します。



### NOTE

コンピュータ、またはスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスをお使いの場合は、[USB TO HOST]端子に接続して楽器から音を鳴らすこともできます(53ページ)。

- 2 オーディオ機器、楽器本体の順に電源を入れます。

- 3 オーディオ機器での再生をスタートします。  
オーディオ機器の再生音が楽器本体のスピーカーで鳴ります。

- 4 オーディオ機器と楽器本体の音量バランスを調整します。

オーディオ機器でオーディオ再生音の音量を調節し、楽器本体の[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールで全体音量を調節します。

### NOTE

- 外部からのオーディオ入力音の音量と、ソング/スタイル/グループの音量のバランスを調節したい場合は、[ノブアサイン](KNOB ASSIGN)ボタンを押して機能6を選んでから、ノブAを回します(28ページ)。
- 機能設定(64ページ、機能番号068)で[AUX IN]端子からのオーディオ入力音の音量を調節することもできます。ただし、初期設定の50を上回る値にすると、音がひずむ場合があります。

- 5 オーディオ再生音に合わせて鍵盤を弾いてみましょう。

### NOTE

オーディオ再生音のメロディー部分をキャンセル(小さく)できます。「メロディーパートの音を小さくする(メロディーキャンセル)」の手順をご覧ください。

- 6 演奏が終わったら、オーディオ機器での再生を停止します。

## メロディーパートの音を小さくする(メロディーキャンセル)

[AUX IN]端子や[USB TO HOST]端子に接続した外部オーディオ機器やコンピューターでのオーディオ再生音をこの楽器で鳴らす場合、メロディーパートの音を小さくできます。オーディオ再生に合わせて、メロディーパートを自分で演奏したいときなどに便利です。

機能設定(64ページ)で設定します。

- 機能番号071「メロディーキャンセル」:  
メロディーキャンセル機能をオン/オフします。
- 機能番号072「メロディーキャンセルパン」:  
キャンセルをかける位置を調節します。

### NOTE

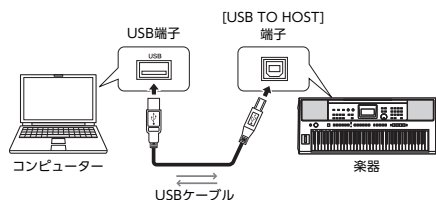
[USB TO HOST]端子に接続してオーディオ再生音を鳴らす場合、「オーディオループバック」(64ページ、機能番号070)がオフのときは、メロディーキャンセル機能は使えません。

## コンピューターやスマートデバイスと接続して使う

[USB TO HOST]端子にコンピューター、スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスを接続すると、以下のことができます。

- ソングやスタイルなどのファイル転送
- MIDIデータの送受信
- オーディオデータの送受信(USBオーディオインターフェース機能)
- スマートデバイス用アプリの利用

コンピューターとの接続方法やデータ転送の方法については、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」(11ページ)をご覧ください。



スマートデバイスとの接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」(11ページ)をご覧ください。

#### ご注意

- USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。
- USB3.0ケーブルは、使用できません。

### ソングやスタイルなどのファイル転送

MIDIファイルを楽器に転送してダウンロードソングとして再生したり、スタイルファイルを楽器に転送して内蔵スタイルとして使用したりできます。また、バックアップファイルを楽器から転送して保存できます。

**コンピューターとの間でファイル転送をするとき:**  
機能設定の「ストレージモード」(64ページ 機能番号076)をオンにして、コンピューターから外部ストレージとして扱います。

**スマートデバイスとの間でファイル転送をするとき:**  
「MusicSoft Manager」アプリを使います。詳しくは、下記ウェブサイトをご確認ください。  
<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

#### NOTE

- ストレージモードは、コンピューターとの間でファイル転送するときのみオンにしてください。ストレージモードをオンにしている間は、楽器の演奏と操作、MIDIデータとオーディオデータの送受信ができません。
- この楽器に転送できるファイルの容量上限は、合計約1.72MBです。
- 楽器に転送されたファイルは、ファイル名順で、記号→数字→アルファベットの順に並びます。

#### ●転送できるファイル

- **MIDIファイル(拡張子: .MID)**  
他の楽器やコンピューターで作ったMIDIファイルをこの楽器にソングとして転送できます。
- **スタイルファイル(拡張子: .STY)**  
他の機器で作ったスタイルファイルをこの楽器に転送して読み込むことができます。
- **バックアップファイル(拡張子: .BUP)**  
楽器内のデータを、1つのバックアップファイルとして保存できます。保存される内容について詳しくは、「バックアップデータ」(66ページ)をご覧ください。

#### NOTE

- この楽器では、ユーザーソングを[USB TO HOST]端子を経由して外部機器に転送することはできません。ユーザーソングを取り出すには、USBフラッシュメモリーに保存します(57ページ)。
- スタイルファイルの容量上限は、1ファイルあたり50KBです。上限を超えたファイルは楽器上で認識されません。

### MIDIデータの送受信

コンピューターやスマートデバイス上で再生したMIDIファイルを楽器で聞いたり、楽器での演奏をMIDIデータとしてコンピューターやスマートデバイスに送信したりできます。

### オーディオデータの送受信 (USBオーディオインターフェース機能)

コンピューターやスマートデバイス上で再生したオーディオファイルを楽器で聞いたり、楽器での演奏をオーディオデータとしてコンピューターやスマートデバイスに送信したりできます。

Windows搭載のコンピューターとの間でオーディオデータの送受信する場合は、専用ドライバーのインストールが必要です。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」(11ページ)をご覧ください。

#### ご注意

DAW(Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合は、「オーディオループバック」(64ページ 機能番号070)をオフにしてください。オンにして使用すると、オーディオデータと楽器の音がミックスされたものがDAWへ送られ、ハウリングや異音が発生することがあります。

#### NOTE

- 音量は、コンピューターやスマートデバイスと、楽器の[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールでそれぞれ調節できます。また、[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音の音量は、機能設定(64ページ 機能番号069)で調節できます。
- [USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を楽器での演奏音に重ねてコンピューターで録音する場合等、楽器からコンピューターへオーディオ再生音を出力するときは、[全体音量](MASTER VOLUME)コントロールでは音量を調節できません。

### スマートデバイス用アプリの利用

スマートデバイスのアプリと楽器と一緒に使えば、演奏を録音してすぐに録音結果を共有するなど、さまざまな機能を使うようになり、可能性が広がります。対応しているスマートデバイスや、アプリに関する情報は、下記のウェブサイトでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

# USBフラッシュメモリーと接続する

[USB TO DEVICE]端子に接続したUSBフラッシュメモリー (別売)に、ユーザーソングや楽器の設定などを、個別のファイルとして保存できます。保存したファイルは、あとで楽器本体に読み込むことができます。

## ご注意

USBフラッシュメモリーに対する操作を行う場合は、電源アダプターを使用してください。電池を使用すると、操作中に電源が切れてデータを失うおそれがあります。また機能によっては、画面上に「UseAdpt」と表示され、操作ができません。

## [USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

### NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

### ■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリー

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」で確認できます。機器を購入する前にご確認ください。

サポート・お問い合わせ:

<https://jp.yamaha.com/support/>

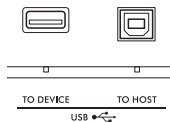
本機では、USB1.1～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なります。

### ご注意

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

### ■ USB機器の接続

- [USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



### ご注意

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行なってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

## USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体で再生したりできます。

### ■ 接続できるUSBフラッシュメモリーの数

使用できるUSBフラッシュメモリーは、1台のみです。

### ■ USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーは本機でフォーマット(56ページ)することをおすすめします。他の機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリーは、本機で正しく動作しない場合があります。

### ご注意

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

### ■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

### ■ USBフラッシュメモリー接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリーへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリーやデータが壊れるおそれがあります。

## USBフラッシュメモリーを使う

### ご注意

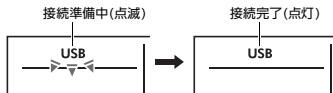
USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず54ページ「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」をお読みください。

### NOTE

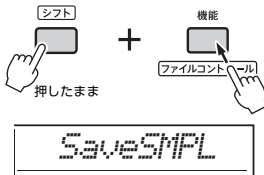
スムーズに操作できるよう、メッセージが表示されることがあります。詳しくは58ページ「メッセージ一覧」をご覧ください。

## 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続し、画面左上に「USB」と点灯することを確認します。

「USB」表示は、USBフラッシュメモリーが楽器本体に認識されたことを示しています。



## 2 [シフト](SHIFT)ボタンを押したまま[機能](FUNCTION)ボタンを押して、ファイルコントロール画面に入ります。



### ● 画面上に「UnFormat」に続いて「Format？」が表示された場合

接続したUSBフラッシュメモリーをフォーマットする必要があります。56ページの手順2以降の説明に従って、フォーマットしてください。

### NOTE

- 以下の場合、ファイルコントロール画面には入れません。
  - スタイルやグループ、ソングの再生/録音中
  - クイックサンプリングモード中、オーディオモード中
  - USBフラッシュメモリーを接続したにもかかわらず、画面左上の欄に「USB」と表示されない場合
- ファイルコントロール画面が表示されている間は、鍵盤を押しても音は鳴りません。また、ファイル操作に関するボタン以外は使用できなくなります。

## 3 ダイアルを回して操作項目を選び、[決定](ENTER)ボタンを押します。

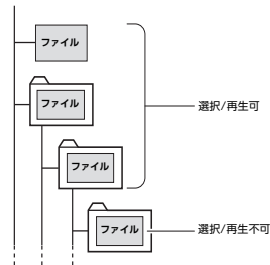
詳細は次表の参照ページの説明をご覧ください。

### ファイルコントロール操作一覧

表示	操作	参照先	
SaveSMPL	USBフラッシュメモリーにサンプルを保存する	リファレンスマニュアル (11ページ)	
LoadSMPL	USBフラッシュメモリー内のサンプルを読み込む		
DeleteSMPL	USBフラッシュメモリー内のサンプルを削除する		
DeleteAUDIO	USBフラッシュメモリー内のオーディオファイルを削除する		
SaveSMF	USBフラッシュメモリーにSMFファイルを保存する		
DeleteSMF	USBフラッシュメモリー内のSMFファイルを削除する		
SaveUSER	USBフラッシュメモリーにユーザーデータ(ユーザーファイル)を保存する		
LoadUSER	USBフラッシュメモリー内のユーザーデータ(ユーザーファイル)を読み込む		
DeleteUSER	USBフラッシュメモリー内のユーザーデータ(ユーザーファイル)を削除する		
LoadSTY	スタイルファイルを個別に読み込む		
ImportWAV	USBフラッシュメモリー内のWAVファイルをサンプルとして読み込む		
Format?	USBフラッシュメモリーをフォーマットする		56ページ
Exit?	ファイルコントロール画面を抜ける		56ページ

USBフラッシュメモリー内の認識可能なフォルダー構成  
コンピューターなどでUSBフラッシュメモリー内のファイルを管理する場合、ルートフォルダーか、1階層目/2階層目のフォルダーにファイルを保存してください。3階層目以降のフォルダーに保存されたファイルは、この楽器では選択や再生ができません。

### USBフラッシュメモリー



### NOTE

USBフラッシュメモリーの中に大量のデータがある場合は、読み込みに時間がかかる場合があります。

### ファイル名表示について

ファイル名に半角のカタカナが含まれている場合、本体の言語の設定(65ページ、機能番号082)を「Japanese」にすることで、半角のカタカナも表示できるようになります。ただし「Japanese」でも、ファイル名以外は常に英語で表示されます。

## ファイルコントロール画面を抜ける

- 1 ダialを回して、「Exit?」を表示させます。



- 2 [決定](ENTER) ボタンを押すと、ファイルコントロール画面を抜けます。



### NOTE

以下のボタンのいずれかを押した場合も、ファイルコントロール画面を抜けます。

- [戻る](EXIT) ボタン
- [機能](FUNCTION) ボタン
- [楽器](VOICE) ボタン
- [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO) ボタン
- [スタイル](STYLE) ボタン
- [グループクリエイター](GROOVE CREATOR) ボタン
- [グランドピアノ](PORTABLE GRAND) ボタン

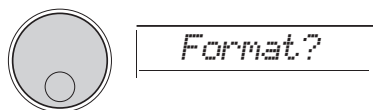
## USBフラッシュメモリーをフォーマットする

市販のUSBフラッシュメモリーを、この楽器で使用できる状態にすることをフォーマット(初期化)といいます。

### ご注意

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

- 1 「USBフラッシュメモリーを使う」(55ページ)の手順1から3を実行し、「Format?」を表示させます。



- 2 [決定](ENTER) ボタンを押します。

フォーマットの実行を再確認するメッセージ「Sure?」が表示されます。



フォーマットを中止する場合は、[戻る](EXIT) ボタンを押します。

- 3 [決定](ENTER) ボタンを押して、フォーマットを実行します。

しばらくするとフォーマット完了を示すメッセージ「Complete」が表示され、USBフラッシュメモリーに「USER FILES」フォルダーが自動的に作成されます。手順1の画面に戻ります。

### ご注意

フォーマット実行中はキャンセルできません。絶対に電源を切ったり、USBフラッシュメモリーを抜いたりしないでください。データ損失の原因になります。

- 4 ファイルコントロール画面を抜けます。

操作方法は、左記「ファイルコントロール画面を抜ける」を参照してください。



## USBフラッシュメモリーにデータを保存する

この楽器上の下記の種類のデータをUSBフラッシュメモリーに保存できます。各データの保存方法について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

### ユーザーデータ

この楽器上の下記3つのデータを「ユーザーデータ」といいます。これらをまとめてひとつの「ユーザーファイル」(.usr)として保存します。

- 全10曲のユーザーソングデータ(32ページ)
- コンピューターから転送し、スタイル番号291～300に読み込んだスタイルデータ
- 全レジストレーションメモリーデータ(49ページ)

### ユーザーソング

ユーザーソングをMIDIファイル(SMF、フォーマット0)に変換して、一曲単位で保存します。

#### SMF(スタンダードMIDIファイル)

鍵盤などで演奏した内容をMIDIデータとして記録する書式の中で、フォーマット0とフォーマット1があります。多くの楽器がSMFフォーマット0に対応しており、また市販のMIDIファイルの多くがSMFフォーマット0で作られています。

### サンプル

クイックサンプリングパッドに登録されているサンプルを、パッド単位でサンプルファイルとして保存します。

## USBフラッシュメモリーからデータを読み込む

USBフラッシュメモリーに保存された下記の種類のデータを、楽器本体に読み込みます。各データの読み込み方法について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

### ユーザーデータ

ユーザーファイル(.usr)から、すべてのユーザーデータを読み込みます。楽器本体内にあるユーザーソング全10曲、スタイル番号291～300のスタイルデータ、全レジストレーションメモリーデータが、USBフラッシュメモリーから読み込まれたものに置き換わります。

### スタイルデータ

外部で作られたスタイルファイル(.sty)をスタイル番号291～300のいずれかに読み込んで、内蔵スタイルと同じように使えます。

### サンプルデータ

サンプルファイルを読み込んで、クイックサンプリングパッドに再登録します。オーディオファイル(WAVファイル)をサンプルとして新規登録することもできます。

#### NOTE

MIDIファイルユーザーソングとして読み込むことはできません。MIDIファイルは、USBフラッシュメモリー上のファイルとして再生するか、楽器の内蔵メモリーに転送してダウンロードソングとして再生します(32、53ページ)。

## USBフラッシュメモリー内のデータを削除する

USBフラッシュメモリー内の以下のファイルを削除できます。削除方法について詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

- ユーザーファイル
- MIDIファイル
- オーディオファイル(WAVファイル)
- サンプルファイル

## メッセージ一覧

メッセージ	意味
Can'tUse	USBフラッシュメモリーが読み書き中のため、現在ファイルの操作ができません。
Complete	保存、転送などの実行が完了しました。
DataErr	データが正しい形式ではありません。
DiskFull	メモリー容量がいっぱいになったため、データを保存できません。別のUSBフラッシュメモリーに保存するか、既存のデータを削除してから、改めて保存してください。
Error	ファイルにエラーがあるか、操作中にエラーが起きました。
FileFull	ファイル数の制限を超えたため、保存できません。別のUSBフラッシュメモリーに保存するか、既存のファイルを削除してから、改めて保存してください。
NoData	データがありません。
NoFile	ファイルがありません。
Ovr (点滅)	USBフラッシュメモリーに過電流が流れたため、USBフラッシュメモリーとの通信を停止しました。USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子から抜き、本体の電源を入れ直してください。
Protect	USBフラッシュメモリーにライトプロテクト(書き込み禁止)がかかっているため、書き込みできません。ライトプロテクトスイッチをオフにするか、ライトプロテクトのかかっていない別のUSBフラッシュメモリーをご使用ください。
UnFormat	フォーマットされていないUSBフラッシュメモリーが接続されています。
UseAdpt	楽器の電源に電池を使用している場合は、USBフラッシュメモリーへの書き込みはできません。電源アダプターを接続してください。

# 機能設定(FUNCTION)

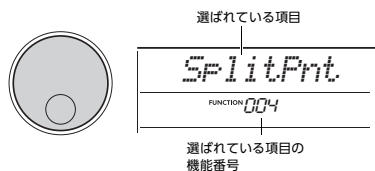
チューニングやスプリットポイント、各音色やエフェクトなどの細かな設定をするのが機能設定です。設定したい項目を、機能リスト(60～65ページ)から見つけてから、下記の操作で設定します。

## 機能設定の基本操作

- 1 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面に入ります。



- 2 設定したい項目名、および機能番号が画面に表示されるまでダイヤルを回します。または[+]ボタン、[-]ボタンを押します。



- 3 画面に呼び出したい機能番号が表示されたら、[決定](ENTER)ボタンを押します。その機能番号の現在の値が表示されます。

### NOTE

以下の機能は、この操作をした時点ですぐに操作が実行されます。

- ソングメロディー音色(機能番号036)
- イニシャルセンド(機能番号067)

- 4 ダイヤル、[+]ボタン、[-]ボタンで、値を設定します。

[+]ボタンと[-]ボタンを同時に押しと、初期設定値に戻ります。



### NOTE

値を変更すると、設定が直接変更されます。

- 5 [決定](ENTER)ボタンを押して、値の設定画面から抜けます。

手順2の画面に戻ります。

いくつかの項目は電源を切っても保持され、またバックアップデータとしてコンピューターに転送/保存ができます。詳細は、66ページをご覧ください。

- 6 [機能](FUNCTION)ボタンを押して、機能設定画面から抜けます。

### NOTE

以下のボタンを押した場合も機能設定画面から抜けます。

- [楽器](VOICE)ボタン
- [スタイル](STYLE)ボタン
- [ソング/オーディオ](SONG/AUDIO)
- [グループクリエイター](GROOVE CREATOR)ボタン

## 機能リスト

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>楽器全体</b>						
001	トランスポーズ	<i>Transpos</i>	-12~12	0	ピッチ(音高)を半音単位で設定します。	
002	チューニング	<i>Tuning</i>	427.0~453.0Hz	440.0 Hz	楽器全体のピッチ(音高)を約0.2Hz単位で設定します。	✓
003	ピッチベンドレンジ	<i>PB Range</i>	01~12	2	ピッチベンドの変化幅を設定します。	
004	スプリットポイント	<i>SplitPnt</i>	036~096 (C1~C6)	054 (F#2)	鍵盤の領域を左右に分けるポイントを設定します。指定した鍵盤とそこより左の鍵盤が、左手鍵盤(自動伴奏領域)になります。	✓
005	タッチレスポンス	<i>TouchRes</i>	1(Soft) 2(Medium) 3(Hard) 4(Fixed)	2 (Medium)	鍵盤を弾くときの感度(鍵盤を強く強さによって音量が変化する割合)を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1(Soft)：軽いタッチで大きい音が出ます。</li> <li>2(Medium)：標準的なタッチです。</li> <li>3(Hard)：大きな音を出すためには、より強いタッチで弾いてください。</li> <li>4(Fixed)：タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。</li> </ul>	✓
<b>メイン音色</b>						
006	音量	<i>M. Volume</i>	000~127	*	メイン音色の音量を設定します。	
007	オクターブ	<i>M. Octave</i>	-2~+2	*	メイン音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
008	パン	<i>M. Pan</i>	L63~L01, C, R01~R63	*	メインの左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
009	リバーブの深さ	<i>M. Reverb</i>	000~127	*	メイン音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
010	コーラスの深さ	<i>M. Chorus</i>	000~127	*	メイン音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	
011	アタックタイム	<i>M. Attack</i>	000~127	064	メイン音色の音の立ち上がり方を設定します。大きい値では音の立ち上がりが遅く、小さい値では速くなります。	
012	リリースタイム	<i>M. Release</i>	000~127	064	離鍵時におけるメイン音色の減衰の仕方を設定します。大きい値では余韻が長く、小さい値では余韻が短くなります。	
013	フィルターカットオフ	<i>M. Cutoff</i>	000~127	064	フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定します。値が大きいほど、音は明るくなります。	
014	フィルターレゾナンス	<i>M. Reso.</i>	000~127	064	レゾナンス(カットオフ周波数近くの音声信号を持ち上げ、音にクセをつける)効果を設定します。値が大きいほど、クセのある音になります。	
<b>デュアル音色</b>						
015	音色	<i>D. Voice</i>	001~820	*	デュアル音色を選択します。	
016	音量	<i>D. Volume</i>	000~127	*	デュアル音色の音量を設定します。	
017	オクターブ	<i>D. Octave</i>	-2~+2	*	デュアル音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
018	パン	<i>D. Pan</i>	L63~L01, C, R01~R63	*	デュアル音色の左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
019	リバーブの深さ	<i>D. Reverb</i>	000~127	*	デュアル音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
020	コーラスの深さ	<i>D. Chorus</i>	000~127	*	デュアル音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	
021	アタックタイム	<i>D. Attack</i>	000~127	064	デュアル音色の音の立ち上がり方を設定します。大きい値では音の立ち上がりが遅く、小さい値では速くなります。	
022	リリースタイム	<i>D. Release</i>	000~127	064	離鍵時におけるデュアル音色の減衰の仕方を設定します。大きい値では余韻が長く、小さい値では余韻が短くなります。	
023	フィルターカットオフ	<i>D. Cutoff</i>	000~127	064	フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定します。値が大きいほど、音は明るくなります。	
024	フィルターレゾナンス	<i>D. Reso.</i>	000~127	064	レゾナンス(カットオフ周波数近くの音声信号を持ち上げ、音にクセをつける)効果を設定します。値が大きいほど、クセのある音になります。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>スプリット音色</b>						
025	音色	S.Voice	001~820	089 (FngBass)	スプリット音色を選択します。	
026	音量	S.Volune	000~127	*	スプリット音色の音量を設定します。	
027	オクターブ	S.Octave	-2~+2	*	スプリット音色の音域をオクターブ単位で設定します。	
028	パン	S.Pan	L63~L01、 C、R01~R63	*	スプリットの左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。	
029	リバーブの深さ	S.Reverb	000~127	*	スプリット音色へのリバーブのかかり具合を設定します。	
030	コーラスの深さ	S.Chorus	000~127	*	スプリット音色へのコーラスのかかり具合を設定します。	
<b>スタイル</b>						
031	音量	StyleVol	000~127	100	スタイルの音量を設定します。	✓
032	フィンガリングタイプ	FingType	1(Multi) 2(Smart Chord)	1(Multi)	スタイル再生時に、自動伴奏鍵域で弾くコードの弾き方(フィンガリングタイプ)を設定します。 ・1(Multi)：コードを構成する音を弾いて自動伴奏を鳴らします。ただし、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスは、鍵盤を1~3個押さえて簡単に弾くこともできます。 ・2(Smart Chord)：コードのルート音(根音)だけを弾いて自動伴奏を鳴らします。	✓
033	スマートコードキー	S.ChdKey	FL7~FL1、 SP0、SP1~SP7	SP0	フィンガリングタイプがスマートコードに設定されているときに、楽譜に記載されたシャープ(♯)やフラット(b)の数から、その曲の調を設定します。調が正しく設定されていると、コードのルート音(根音)を弾くだけで、自動的に曲に合ったコードを鳴らせます。 ・FL7~FL1：フラット(b)が1~7つある曲の場合 ・SP0：シャープもフラットもない曲の場合 ・SP1~SP7：シャープ(♯)が1~7つある曲の場合	
<b>グループ</b>						
034	音量	GroupVol	000~127	100	グループの音量を設定します。	✓
<b>ソング</b>						
035	音量	SongVol	000~127	100	ソングの音量を設定します。	✓
036	ソングメロディー音色	MelodyUc	—	—	ソングのメロディー音色を、現在選択されているメイン音色と同じものに変更します。機能名が表示されている状態で[決定](ENTER)ボタンを押すと、すぐに実行されます。メロディー音色の変更は一時的なもので、ソングには保存されません。ソングを読み込み直すと元に戻ります。	
<b>エフェクト</b>						
037	リバーブタイプ	Reverb	データリスト参照	**	リバーブ効果のタイプを設定します。	
038	リバーブトータルレベル	RevLevel	000~127	64	リバーブ効果の音量を設定します。	
039	コーラスタイプ	Chorus	データリスト参照	**	コーラス効果のタイプを設定します。	
040	マスターEQタイプ	MasterEQ	1(Standard) 2(Piano) 3(Bright) 4(Mild)	1 (Standard)	音質を設定します。ただし、メガブーストがオンのときは、「[-(M Boost1/2)]」と表示されます。 ・1(Standard)：標準的な設定です。 ・2(Piano)：ピアノソロ演奏に適した設定です。 ・3(Bright)：中域を抑えて音の印象を明るくします。 ・4(Mild)：高域を抑えて音の印象を柔らかくします。	
<b>DSP</b>						
041	DSP1タイプ	DSP1Type	データリスト参照	*	DSP1効果のタイプか、DSP1効果オフを設定します。	
042	DSP2タイプ	DSP2Type	データリスト参照	01	DSP2効果のタイプを設定します。	
043	DSP2パート	DSP2Part	1(All) 2(Keyboard) 3(Backing) 4(Mic) 5(Sampling)	1(All)	DSP2効果がかかるパートを設定します。詳しくは26ページをご覧ください。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>マイク</b>						
044	音量	MicVol	000~127	マイクタイプによる	マイク入力音の音量を設定します。	✓
045	パン	MicPan	L63~L01、C、R01~R63	マイクタイプによる	マイク入力音の左右の定位(音が聞こえる位置)を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが「TALK」のときは、「---」と表示され、設定できません。	✓
046	リバーブの深さ	MicRev	000~127	マイクタイプによる	マイク入力音へのリバーブのかかり具合を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが「TALK」のときは、「---」と表示され、値を指定できません。	✓
047	コーラスの深さ	MicChor	000~127	マイクタイプによる	マイク入力音へのコーラスのかかり具合を設定します。ただし、マイクがオフ、またはマイクタイプが「TALK」のときは、「---」と表示され、値を指定できません。	✓
<b>サンプリング</b>						
048	ブランクカット	BlankCut	ON/OFF	ON	[ON] にすると、サンプリング終了時に、サンプルの冒頭と終わりの無音部分を自動でカットします。	✓
049	サンプリングパッド音量	SmplVol	000~127	100	ウィックサンプリングパッドに登録されているサンプルの音量を設定します。	
<b>ハーモニー/アルペジオ</b>						
050	ハーモニータイプ/アルペジオタイプ	Harm/Arp	データリスト参照	*	ハーモニータイプ/アルペジオタイプを選択します。	
051	ハーモニー音量	HarmVol	000~127	*	ハーモニー音量を設定します。	
052	アルペジオ ペロシティー	ArpVelo	1(Original) 2(Key)	アルペジオタイプによる	アルペジオ機能で生成する音のペロシティーを決める方法を確認/変更します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(Original): タイプごとの初期値を使います。</li> <li>• 2(Key): 鍵盤を押したときのペロシティーを使います。</li> </ul> 設定は一時的なもので、各タイプには保存されません。タイプを選び直すと初期設定に戻ります。	
053	アルペジオ フォンタイズ	Quantize	1(OFF) 2(1/8) 3(1/16)	アルペジオタイプによる	アルペジオ フォンタイズの設定を確認/変更します。アルペジオ フォンタイズは、ソング/スタイル/グループの再生とタイミングが合うように、アルペジオの音のタイミングを補正する機能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(OFF): ずれを補正しません。</li> <li>• 2(1/8): 8分音符のタイミングで同期がとれるようにずれを補正します。</li> <li>• 3(1/16): 16分音符のタイミングで同期がとれるようにずれを補正します。</li> </ul>	
<b>ペダル</b>						
054	ペダル機能	Pd1Func	1(Sustain) 2(Arpeggio Hold) 3(Sus+ArpeggioH) 4(Art.)	1(Sustain)	[SUSTAIN]端子につないだフットスイッチに割り当てる機能を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(Sustain): フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。</li> <li>• 2(Arpeggio Hold): アルペジオ再生時に、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離してもアルペジオが鳴り続けます。</li> <li>• 3(Sus+ArpeggioH): 上記1、2の機能が同時に得られます。</li> <li>• 4(Art.): フットスイッチを踏んでいる間、アーティキュレーション効果が得られます。</li> </ul>	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>スケールチューン</b>						
055	スケール	Scale	1(Equal) 2(Pure Maj) 3(Pure min) 4(Bayat) 5(Rast)	1(Equal)	使用する音律を設定します。音律を変えると、各鍵盤のピッチ(音高)が変わります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(Equal)：平均律</li> <li>• 2(Pure Maj)：純正律長調</li> <li>• 3(Pure min)：純正律短調</li> <li>• 4(Bayat)：アラブ音律</li> <li>• 5(Rast)：アラブ音律</li> </ul> 機能番号057、058を使って独自の音律を設定した場合は、スケールの表示が「[Edited]」になります。値を変更して1～5を選ぶと、設定した独自の音律は失われます。	
056	ベースノート	BaseNote	01(C)、02(C $\sharp$ )、03(D)、04(E $\flat$ )、05(E)、06(F)、07(F $\sharp$ )、08(G)、09(A $\flat$ )、10(A)、11(B $\flat$ )、12(B)	01(C)	スケールのトニックノート(主音)を設定します。Equal(平均律)以外のスケールを使う場合は、演奏するキーに応じて、ベースノートの設定を忘れずに行ないましょう。	
057	チューニング対象ノート	TuneNote	01(C)、02(C $\sharp$ )、03(D)、04(E $\flat$ )、05(E)、06(F)、07(F $\sharp$ )、08(G)、09(A $\flat$ )、10(A)、11(B $\flat$ )、12(B)	01(C)	ノート(音)別にピッチ(音高)を設定します。この機能を使って、独自の音律を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 057「チューニング対象ノート」：ピッチを設定するノートを選択します。</li> <li>• 058「チューニング」：対象ノートのピッチを設定します。1セント単位(半音を100等分したピッチの単位)で、平均律の場合との差分を設定します。</li> </ul>	
058	チューニング	Tune	-64～63	スケールによる	上記の設定をした後に機能番号055「スケール」の値を変更すると、独自の音律設定はすべて消去されます。独自の音律を設定したときは、レジストレーションメモリーへの保存(49ページ)をおすすめします。	
<b>メトロノーム</b>						
059	拍子(分子)	TimeSign	00～60	**	メトロノームの拍子を設定します。	
060	拍子(分母)	TimeSigD	2分音符、4分音符、8分音符、16分音符	**	メトロノームの1拍の音符の長さを設定します。	
061	メトロノーム音量	MetroVol	000～127	100	メトロノームの音量を設定します。	✓
<b>MIDI</b>						
062	ローカルコントロール	Local	ON/OFF	ON	この楽器の演奏を、内部音源で鳴らす(ON)か鳴らさない(OFF)かを設定します。「OFF」に設定すると、鍵盤を弾いても発音しなくなります。	
063	外部クロック	ExtClock	ON/OFF	OFF	この楽器のクロックを内部クロックで動作させる(OFF)か、外部クロックで動作させる(ON)かを設定します。スタイルやアルペジオの演奏を、コンピューター上のアプリケーションや外部機器のテンポに合わせたい場合に「ON」に設定します。	
064	キーボードアウト	KbdOut	ON/OFF	ON	鍵盤の演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(ON)か、しない(OFF)かを設定します。	
065	スタイルアウト	StyleOut	ON/OFF	OFF	スタイル機能で再生された演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(ON)か、しない(OFF)かを設定します。	
066	ソングアウト	SongOut	ON/OFF	OFF	ソング機能で再生された演奏情報を、MIDIメッセージとして[USB TO HOST]端子から送信する(ON)か、しない(OFF)かを設定します。	
067	イニシャルセンド	InitSend	—	—	この楽器のパネル設定をコンピューターに送信します。機能名が表示されている状態で[決定](ENTER)ボタンを押すと、すぐに実行されます。コンピューター上の音楽制作アプリケーションに、この楽器上の演奏をMIDI録音する場合に、録音スタート直後に実行しておくとういでしょう。	

機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>オーディオ</b>						
068	[AUX IN]オーディオ入力音量	AuxInVol	000~127	50	[AUX IN]端子からのオーディオ入力音の音量を設定します。	✓
069	[USB TO HOST] [USB TO DEVICE] オーディオ入力音量	USBInVol	000~127	100	[USB TO HOST]端子、[USB TO DEVICE]端子からのオーディオ入力音の音量を調節します。	✓
070	オーディオループバック	Loopback	ON/OFF	ON	[USB TO HOST]端子からのオーディオ入力音を、楽器での演奏音に重ねて再度コンピューターに出力するかどうかを設定します。楽器での演奏音しか出力したくない場合は「OFF」に設定します。	✓
071	メロディーキャンセル	MelodySP	ON/OFF	OFF	[AUX IN]端子に接続した外部オーディオ機器や、[USB TO HOST]端子に接続したコンピューターなどからのオーディオ入力音をこの楽器で鳴らしているときに、メロディーパートの音をキャンセル(小さくする(ON)か、しない(OFF)か)を設定します。	
072	メロディーキャンセルパン	SupprPan	L63~L01、 C、R01~R63	C	メロディーキャンセルがオンのときに、左右の定位(音の位置)のうち、どこをキャンセルする(小さくする)かを調節します。	
<b>レジストフリーズ</b>						
073	スタイルフリーズ	StyleFrz	ON/OFF	OFF	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、スタイル設定は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「ON」に設定します。	✓
074	トランスポーズフリーズ	TransFrz	ON/OFF	OFF	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、トランスポーズは呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「ON」に設定します。	✓
075	音色フリーズ	VoiceFrz	ON/OFF	OFF	レジストレーションメモリーを呼び出すときに、音色は呼び出さず、現状のまま固定(フリーズ)したい場合は「ON」に設定します。	✓
<b>ストレージ</b>						
076	ストレージモード	Storage	ON/OFF	OFF	この楽器とコンピューターとの間でファイルを転送する時に「ON」にします。ストレージモードを「ON」にしている間は、楽器を演奏することができません。	
<b>デモ</b>						
077	デモグループ	DemoGrp	1(Demo) 2(Preset) 3(User) 4(Download) 5(USB) 6(AUDIO)	1(Demo)	[デモ](DEMO)ボタンを押したときに連続再生する対象を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(Demo)：内蔵ソング001~003</li> <li>• 2(Preset)：内蔵ソング全曲(001~030)</li> <li>• 3(User)：ユーザーソング全曲</li> <li>• 4(Download)：コンピューターから転送されたソング全曲</li> <li>• 5(USB)：USBフラッシュメモリー内のソング(MIDIファイル)全曲</li> <li>• 6(AUDIO)：USBフラッシュメモリー内のオーディオファイル(WAVファイル)全曲</li> </ul>	✓
078	再生モード	PlayMode	1(Normal) 2(Random)	1(Normal)	[デモ](DEMO)ボタンを押したときに連続再生するときの曲の順番を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(Normal)：曲の番号順に再生します。</li> <li>• 2(Random)：ランダムな順番で再生します。</li> </ul>	✓
<b>スピーカー</b>						
079	スピーカー	Speaker	1(HPSwitch) 2(SP On) 3(SP Off)	1 (HPSwitch)	楽器本体のスピーカーから音を出すかどうかを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1(HPSwitch)：ヘッドホンが接続されているときは、スピーカーから音を出さず、ヘッドホンから音を出します。ヘッドホンが接続されていないときは、スピーカーから音を出します。</li> <li>• 2(SP On)：ヘッドホンの接続の有無によらず、スピーカーから音を出します。</li> <li>• 3(SP Off)：ヘッドホンの接続の有無によらず、スピーカーから音を出しません。</li> </ul>	



機能番号	設定項目	画面表示	設定値	初期設定	内容	バックアップ対象
<b>電源</b>						
080	オートパワーオフ	<i>AutoOff</i>	OFF、5/10/15/ 30/60/120(分)	30(分)	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。「OFF」に設定すると、自動では電源は切れません。	✓
081	電池選択	<i>Battery</i>	1(Alkaline) 2(Ni-MH)	1(Alkaline)	使用する電池の種類を設定します。 ・1(Alkaline)：アルカリ乾電池、マンガン乾電池 ・2(Ni-MH)：充電式ニッケル水素電池	✓
<b>言語</b>						
082	言語切替	<i>Language</i>	1(English) 2(Japanese)	1(English)	USBフラッシュメモリー内のファイルや、コンピューターから楽器本体に転送されたファイルのファイル名を表示するときの言語を設定します。ただし、「2(Japanese)」を選択しても全角文字は表示されません。	✓

\* 音色ごとに最適な設定値になっています。

\*\* 現在選ばれている「ソング」「スタイル」「グループ」ごとに最適な設定値になっています。

**NOTE**

MIDIとオーディオの項目は、楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターなどの外部機器を接続した場合(52ページ)に活用できません。

# バックアップと初期化

## バックアップデータ

以下のデータは自動的にバックアップ(保存)されるため、電源を切ってもデータは消えません。

### 随時バックアップされる内容

- ユーザーソング(32ページ)
- 外部から読み込んだスタイル(スタイル番号291~300)(※)
- クイックサンプリングパッドに登録されたサンプル(40ページ)  
※スタイルファイルの読み込みについて詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。

### 電源を切ったときにバックアップされる内容

- レジストレーションメモリー(49ページ)
- 機能設定の各設定:(60~65ページ)  
機能リストのバックアップ対象列にチェックマークが入っている設定がバックアップされます。

上記のバックアップデータに加え、コンピューターから転送した全スタイルファイル(読み込まれていないものも含む)と全ソングファイルは、電源をオフにしても消えずに楽器本体内に保存されます。

## ご注意

バックアップは電源を切るときに自動的に実行されます。ただし、下記の状況で電源が切れたときはバックアップが実行されず、設定した内容が失われますので、ご注意ください。

- 電源が入っている状態で、電源アダプターを抜いたとき
- 停電などで突然電源が切れたとき
- 電池を使用していて、消耗して電源が切れたとき

### バックアップファイル(.BUP)について

コンピューターやスマートデバイスに転送できるバックアップファイル(.BUP)には、以下のデータが含まれます。

- ユーザーソング(ソング番号031~040)
  - 外部から読み込んだスタイル(スタイル番号291~300)
  - 上記「電源を切ったときにバックアップされる内容」のデータ
- バックアップファイルの転送方法については、53ページをご覧ください。

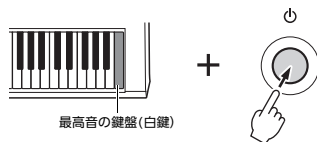
## 楽器を初期化する

バックアップデータなどを消去し、設定を工場出荷時の状態に戻すことを「初期化」と呼びます。目的に応じて、以下の2つの方法で初期化を行なってください。

## バックアップクリア

バックアップデータを初期状態に戻します。

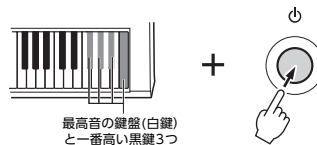
鍵盤の最高音(白鍵)を押したまま、[ON](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



## フラッシュクリア

コンピューターから転送したソング/スタイルの全データを消去します。ただし、スタイル番号291~300に読み込まれたデータは消去されません。

鍵盤の最高音(白鍵)と一番高い黒鍵3つを同時に押したまま、[ON](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。



## ご注意

この操作により、購入した有料のデータも消去されます。消去したくないデータは、必要に応じてコンピューターに転送/保存しておきましょう。詳細は、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」(11ページ)をご覧ください。

# 困ったときは

現象	原因と解決方法
[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れたときに、ポツンという音がする。	故障ではありません。本体に電流が流れるためです。電源を入れたときは[全体音量](MASTER VOLUME)を最小にしてください。
[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して、電源を入れたときに、電源がすぐ切れる。	指定以外の電源アダプターを使用すると、電源を入れたときに電源がすぐに切れる場合があります。電源アダプターは必ず指定のもの(70ページ)をご使用ください。
この楽器の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)とき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。この楽器の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。
電源が勝手に切れる。	故障ではありません。オートパワーオフ機能(17ページ)が働いたためです。
<ul style="list-style-type: none"> <li>音量が小さくなった。</li> <li>音質が劣化した。</li> <li>スタイル/ソング/グループ/アルペジオが勝手に止まる。</li> <li>ソングなどの録音内容が、正しく演奏(再生)されない。</li> <li>突然画面の表示が消え、パネル設定がリセットされた。</li> <li>USBフラッシュメモリーを接続すると電源が切れる。</li> </ul>	電池が消耗しています。新しい電池または充電された電池にすべて交換するか、電源アダプターを使用してください。
鍵盤を押さえても音が鳴らない。 スタイル/ソング/グループをスタートさせても音が鳴らない。	[PHONES]端子に、ヘッドホンのプラグが接続されています。ヘッドホンのプラグを取り外すか、機能番号079「スピーカー」(64ページ)を「2(SP On)」に設定してください。 機能番号079「スピーカー」(64ページ)が「3(SP Off)」に設定されています。「1(HPSwitch)」または「2(SP On)」に設定してください。 機能番号062「ローカルコントロール」(63ページ)がオフ(OFF)に設定されています。通常はオン(ON)に設定してください。
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった。(フットスイッチを踏むと音がカットされ、フットスイッチから足を離すとサステインが効く)	フットスイッチを踏んだまま電源を入れたり、電源が入った状態でフットスイッチの抜き差しをしたためです。電源を切り、フットスイッチを踏まずに、もう一度電源を入れ直してください。
鍵盤演奏をしているとき、同時に押さえた鍵盤で鳴らない音がある。また、スタイル/ソング/グループ/アルペジオ/クイックサンプルリングパッドの演奏音が途中で途切れることがある。	この楽器では、デュアル音色やスプリット音色、スタイル/ソング/グループ/アルペジオなどを含めて、最大64音の範囲で鳴らせます。64以上の発音情報があった場合、発音中のいずれかの音が消えてしまいます。
押さえる鍵盤によって、音質や音量が異なる。	故障ではありません。この楽器では、リアルな楽器表現を可能にするために、鍵盤をいくつかに分けて楽器音をサンプリングしています。したがって、音色によっては、音域によって音質や音量が異なる場合があります。
鍵盤で弾いた音やスタイル/ソング/グループ再生音が、はずんだり、リバーブが深くかかりすぎた状態になるなど、通常とは違うサウンドになったが、元に戻す方法がわからない。	LIVE CONTROLノブの操作などの影響で、意図しない設定になっています。これを元に戻すには、DSP2をオフにしたり、音色/スタイル/ソング/グループを切り替えたり、[グランドピアノ](PORTABLE GRAND)ボタンを押したりして、パネル設定をリセットしてください。
[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押しても、ソング/スタイル/グループがスタートしない。アルペジオをオンにして鍵盤を弾いても、アルペジオがスタートしない。	機能番号063「外部クロック」(63ページ)がオン(ON)に設定されています。通常は外部クロックをオフ(OFF)に設定しておきましょう。
スタイル/ソング/グループの再生音量が小さい。	各機能の音量が下がっていませんか? 設定を確認してください(61ページ)。
スタイルをオンにしているにもかかわらず、左手の鍵盤を弾いてもコードが認識されない。	機能番号004「スプリットポイント」(60ページ)の設定が不適切です。適切な位置に設定してください。
スタイル再生で、リズム(ドラム)パート以外の音が鳴らない。	スタイル(ACMP)がオンになっていません。[スタイル オン/オフ](ACMP ON/OFF)ボタンを押して「ACMP」を表示させてください。(29ページ)
特定のスタイルを選んでいるとき、[スタート/ストップ](START/STOP)ボタンを押してもリズムが鳴らない。	故障ではありません。リズムデータを含まない一部のスタイルでは、リズムだけを鳴らそうとしたときには音が鳴りません。その場合は、スタイル(ACMP)をオンにして、自動伴奏領域でコードを弾いたときのみ、伴奏が再生されます。
[スタイル オン/オフ](ACMP ON/OFF)ボタンを押しても、ACMPが表示されない。	スタイル機能が選択されていません。スタイルを使うときは、まず[スタイル](STYLE)ボタンを押して、スタイル(STYLE)ランプを点灯させてください。
楽器を操作しても楽器が反応しない。	機能番号076「ストレージモード」(64ページ)がオン(ON)に設定されています。ストレージモードをオフ(OFF)にしてください。

現象	原因と解決方法
<p>押さえたコードのとおりスタイルが鳴らない。</p>	<p>機能番号032「フィンガリングタイプ」(31、61ページ)の設定が、コードの弾き方と合っていない。設定をご確認ください。押さえたコードが設定に応じて楽器にどう認識されるかは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(11ページ)をご覧ください。</p> <p>機能番号032「フィンガリングタイプ」(31、61ページ)が、「1(Multi)」に設定されている場合、以下のような現象が発生しますが、正常な動作です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 同じようなコードが連続した場合(マイナーセブンスコードに、同じルート音のマイナーコードが続いた場合など)、スタイルが変化しないことがあります。</li> <li>• 鍵盤を2つだけ押さえた場合、直前に押さえたコードをもとに最適なコードが検出されます。</li> <li>• オクターブ(完全8度)の鍵盤を押さえた場合は、ルート音だけの伴奏が鳴ります。</li> </ul>
<p>スマートデバイスのアプリケーションが楽器を認識しない。</p>	<p>機能番号076「ストレージモード」(64ページ)がオン(ON)に設定されています。ストレージモードをオフ(OFF)にしてください。</p>

必要に応じて、「メッセージ一覧」(34、48、58ページ)もご確認ください。

# 仕様

品名		電子キーボード		
サイズ/質量	寸法	992 mm × 404 mm × 136 mm		
	質量	7.0 kg (電池含まず)		
操作子	鍵盤	鍵盤数	61	
		タッチ感度	ソフト、ミディアム、ハード、フィックス	
	その他の操作子	ピッチベンドホイール	○	
		ノブ	2	
パネル	言語	英語(和文シート)		
音源/音色	音源	音源方式	AWMステレオサンプリング	
	最大同時発音数	64		
	プリセット	音色数	820 (294/パネル音色+28ドラム/SFXキット+40アルペジオ音色+458XGlite音色)	
	対応フォーマット	GM, XGlite		
効果	タイプ	リバープ	12	
		コーラス	5	
		マスターEQ	4	
		DSP	DSP1 : 41 DSP2 : 12	
伴奏スタイル	プリセット	スタイル数	290	
		フィンガリング	マルチ、スマートコード	
		スタイルコントロール	スタイルオン/オフ、シンクロスタート、シンクロストップ、スタート/ストップ、イントロ/エンディング/リタルダント、メイン/フィルイン、トラックオン/オフ	
	外部スタイル	10		
	その他特長	ワンタッチセッティング (OTS)	○	
対応フォーマット	スタイルファイルフォーマット (SFF)			
グループクリエイター	プリセット	グループ数	35	
		セクション数	5 (4 セクション + 1 クライマックス/エンディング)	
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	30	
		曲数	10	
		トラック数	6 (5×ロディー + 1スタイル/グループ)	
	フォーマット	データ容量	約19,000音符/10曲	
		再生	SMF(フォーマット0、フォーマット1)	
	録音	オリジナルフォーマット(SMF0変換機能あり)		
USBオーディオレコーダー	録音時間(最大)	1曲につき80分(約0.9GB)		
	フォーマット	再生	WAV(44.1 kHz, 16 bit, ステレオ)	
		録音	WAV(44.1 kHz, 16 bit, ステレオ)	
クイックサンプリング	サンプリングタイプ	ワンショット、ループ		
	サンプリング数(プリセット/ユーザー)	4		
	サンプリング時間	約9.6秒/サンブル		
	サンプリングソース	AUX IN, MIC INPUT, USBオーディオインターフェース、WAVファイル		
	サンプリングフォーマット	オリジナルフォーマット(16 bit, ステレオ)		
	サンプリング周波数	44.1 kHz		
ファンクション	音色	デュアル	○	
		スプリット	○	
		ハーモニー	26	
		アルペジオ	152	
		アーティキュレーション	○	
	レジストレーションメモリー	ボタン数	4 (×8バンク)	
		コントロール	フリーズ	
	全体設定	メトロノーム	○	
		テンポ	11~280	
		トランスポーズ	-12~0~+12	
チューニング		427.0~440.0~453.0 Hz : 約0.2 Hz単位		
オクターブボタン		○		
	スケール(音律)	5タイプ		

ファンクション	その他	ピアノボタン	○
		デモ	○
		メロディーキャンセル	○
		クロスフェード	○
		USBオーディオインターフェース機能	44.1 kHz、16 bit、ステレオ
		モーションエフェクト	57
		メガブースト	2段階 (約+3 dB、約+6 dB)
メモリー/接続端子	メモリー	内蔵メモリー	約1.72 MB
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー
	接続端子	DC IN	12V
		ヘッドホン	ステレオ標準フォーン端子
		マイク	○
		サステインペダル	○
		AUX IN	ステレオミニ端子
		OUTPUT	標準フォーン端子：L/L+R、R
		USB TO DEVICE	○
USB TO HOST	○		
音響	アンプ出力	6 W + 6 W	
	スピーカー	12 cm × 2	
電源部	電源	電源アダプター	PA-150B、またはヤマハ推奨の同等品 (出力：DC 12 V、1.5 A)
		電池	単3電池 (アルカリ電池/マンガン電池/充電式ニッケル水素電池) × 6 (別売)
	消費電力	13 W (電源アダプター PA-150B 使用時)	
	電池寿命	アルカリ電池で約7時間、充電式ニッケル水素電池で約8時間	
	オートパワーオフ	○	
付属品	取扱説明書、譜面立て、電源アダプター (PA-150B またはヤマハ推奨の同等品)、製品登録のご案内、和文シート		
別売品	キーボードスタンド (L-2C/L-2L)、ヘッドホン (HPH-150/HPH-100/HPH-50)、フットスイッチ (FC4A/FC5)、ワイヤレスMIDIアダプター (UD-BT01)		

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

# 索引

<b>A</b>	困ったときは.....67
A-Bリポート.....35	コンピューター.....52
ACMP.....29	コンピューターとつなぐ.....11
<b>B</b>	<b>サ</b>
BGM.....33	サステイン.....51
<b>D</b>	サンプリング.....40
DSP.....26	サンプル.....40
<b>M</b>	<b>シ</b>
MIDI.....32, 53, 63	自動伴奏.....29
MIDI入門.....11	自動伴奏鍵域.....29
<b>O</b>	シフト.....12
OTS.....23	仕様.....69
<b>S</b>	初期化.....66
S.Art Lite音色.....25	シンクロスタート.....29
<b>U</b>	シンクロストップ.....30
USB TO DEVICE.....54	<b>ス</b>
USB TO HOST.....52	スケールチューン.....63
USBオーディオインターフェース機能.....53	スタイル.....29
USBフラッシュメモリー.....54	スタイルリボイス.....31
<b>ア</b>	スプリット音色.....23
アーティキュレーション.....25	スプリットポイント.....29, 60
アプリ.....53	スマートコード.....31
アルペジオ.....24	スマートコードキー.....31
<b>イ</b>	スマートデバイス.....52
一時停止.....34	スマートデバイス接続マニュアル.....11
イントロ.....30	<b>セ</b>
<b>エ</b>	セクション.....30, 38
エンディング.....30	<b>ソ</b>
<b>オ</b>	ソング.....32, 33
オーディオ機器.....52	ソングブック.....11
オーディオファイル.....32, 34	ソング録音.....44
オーディオ録音.....44	<b>タ</b>
オートパワーオフ.....17, 65	ダウンロードソング.....32
音色.....22	タッチレスポンス.....60
音量.....12	タップ.....21
音量アップ.....21	タップスタート.....21
<b>カ</b>	<b>チ</b>
外部クロック.....63	チューニング.....60
外部スピーカー.....51	<b>テ</b>
楽器(音色).....22	データリスト.....11
カテゴリ(音声、スタイル).....19	デモソング.....33
カテゴリ(ソング).....32	デュアル音色.....22
画面.....20	電源.....12, 17
<b>キ</b>	電源アダプター.....16
機能設定.....59	電池.....16
<b>ク</b>	テンポ.....21
クイックサンプリング.....40	<b>ト</b>
クライマックス.....38	トーク.....37
グランドピアノ.....14	動画マニュアル.....11
グループ.....38	トラック(グループ).....38
グループクリエイター.....38	トラック(スタイル).....30
<b>ケ</b>	トラック(ソング).....35, 45
言語切替.....65	トランスポーズ.....60
<b>コ</b>	<b>ノ</b>
コード.....29	ノブ.....28
コーラス.....37	<b>ハ</b>
コーラスタイプ.....61	ハーモニー.....24
効果.....26	バックアップ.....66
	バックアップクリア.....66
	早送り.....34
	早戻し.....34
	<b>ヒ</b>
	ピッチベンド.....15
	ピッチベンドレンジ.....60
	<b>フ</b>
	ファイルコントロール画面.....55, 56
	ファイル転送.....53
	フィルイン.....30
	フィンガリングタイプ.....31
	フォーマット.....56
	付属品.....10
	フットスイッチ.....51
	譜面立て.....10
	フラッシュクリア.....66
	フリーズ.....50
	<b>ヘ</b>
	ペダル.....51
	ヘッドホン.....51
	<b>マ</b>
	マイク.....36
	マスターEQタイプ.....61
	マルチフィンガー.....31
	<b>メ</b>
	メインA/B.....30
	メイン音色.....22
	メガブースト.....21
	メッセージ一覧.....34, 48, 58
	メトロノーム.....21
	メロディーキャンセル.....52
	<b>モ</b>
	モーションエフェクト.....27
	<b>ユ</b>
	ユーザーソング.....32, 44
	<b>リ</b>
	リトリガー.....39
	リバーブ.....37
	リバーブタイプ.....61
	リファレンスマニュアル.....11
	<b>ル</b>
	ループ再生.....40
	<b>レ</b>
	レジストレーションメモリー.....49
	<b>ロ</b>
	ローカルコントロール.....63
	録音.....44
	<b>ワ</b>
	ワンショット再生.....40
	ワンタッチセッティング.....23

メモ



メモ

## 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

### ●保証書

本書には保証書が掲載されています。「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

### ●保証期間

保証書をご覧ください。

### ●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

### ●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

### ●補修性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

### ●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

### ●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとおわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

## ◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



ナビダイヤル(全国共通番号)  
**0570-012-808**

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830へおかけください。

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)  
FAX 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125  
西日本(北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

## ◆修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)  
\*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1 JMT 京浜 E棟A-5F FAX 03-5762-2125  
西日本サービスセンター 〒556-0011 大阪府浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F FAX 06-6649-9340

\*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆ 本製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



ナビダイヤル(全国共通番号)

**0570-006-808**

ナビダイヤル®

※固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。  
通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272へおかけください。

受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

<https://jp.yamaha.com/support/>

◆ ウェブサイトのご案内

- |                      |   |
|----------------------|---|
| ・ヤマハ株式会社のホームページ      | <a href="https://jp.yamaha.com/">https://jp.yamaha.com/</a>                 |
| ・ヤマハ エレクトーン・キーボードサイト | <a href="https://jp.yamaha.com/kbd/">https://jp.yamaha.com/kbd/</a>         |
| ・ヤマハ サポート・お問い合わせ     | <a href="https://jp.yamaha.com/support/">https://jp.yamaha.com/support/</a> |
| ・ヤマハミュージックデータショップ    | <a href="https://yamahamusicdata.jp/">https://yamahamusicdata.jp/</a>       |

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

\* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

この度はヤマハ 電子キーボードをお買い上げいただきましてありがとうございます。  
本書は下記の保証規定により無料修理を行なうことをお約束するものです。  
お買い上げの日から右記期間中に万一故障が発生した場合は製品に本書を添えて  
お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

ご住所 <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> - <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/> <input style="width: 20px; height: 20px;" type="text"/>
電話                   —                   —
お名前 <span style="float: right;">殿</span>

\* この保証書にご記入いただきましたお客様のお名前、ご住所などの情報は、  
本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用いたします。

**修理ご相談センター**  **0570-012-808**  
ナビダイヤル。一般電話。公共電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

※上記番号でつながらない場合は 053-460-4830 へおかけください。  
 受付時間: 月～金 10:00～17:00 (土日・祝日・センター指定休日を除く)

製造番号		
お買い上げ日	年       月       日	
保証期間	本体 電源アダプター	お買い上げの日から一年間
販売店名		
(所在地)		
(電話)		(扱者名)

**株式会社ヤマハミュージックジャパン**

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11

## 保証規定

保証期間中、正常なご使用状態のもとで万一発生した故障につきましては、無料修理致します。

### ●保証書のご使用方法

- 保証期間内に万一本製品が故障した場合には、お買い上げの販売店  
にご依頼の上、修理に際して本書をご提示ください。

### ●保証期間中でも次の場合は有料となります。

- 納品後、輸送・移動時のお取扱いが適当でないために生じた故障・  
損害の場合。
- 取扱説明書に記載の注意事項に反するお取扱いによって発生した故  
障の場合。
- 故障の原因が本製品以外の機器にある場合。
- 塗装面及び金属面が経年変化により退色、変色した場合。
- 弊社関係のサービスマン以外の方が修理・改造された部分で、  
その修理改造が不適当であった場合。
- 火災・地震・水害・落雷、その他の天災及び公害や電圧異常による  
故障、損傷の場合。
- 鼠害、塩害等による故障、損傷の場合。
- 本書にお買い上げ日、お客様名、販売店名の記入のない場合。  
あるいは字句を書替えられた場合。
- 本書のない場合。又、ご提示のない場合。
- お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。

### ●転居の場合等

- 転居、ご贈答品等で、本書に記入してあるお買い上げ販売店に修理  
をご依頼できない場合には、ヤマハ修理ご相談センターにご相談くださ  
い。
- 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理を行なった場合には、出  
張に要する実費を申し受けます。
- 保証期間内に、本製品を他人に譲渡あるいは転売された場合に於て  
も、残存期間は保証致します。
- 本書は日本国内においてのみ有効です。  
(This warranty is valid only within Japan.)
- 保証期間の1年が過ぎても、サービスは有料にて責任を持って実  
施させていただきます。
- 本書は再発行致しませんので大切に保管してください。

この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約  
束するものです。  
従って本書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません  
ので、保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げ  
の販売店もしくはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。